GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE
GRADUATE SCHOOL OF MEDICAL AND PHARMACEUTICAL SCIENCES
SCHOOL OF MEDICINE

2024·2025

CHIBA UNIVERSITY

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学 亥鼻地区事務部総務課企画係
Tel 043-222-7171 (大代表)
www.m.chiba-u.ac.jp

Copyright(C) 2024 Chiba University.All Rights Reserved.

千葉大学
大学院医学研究院・大学院医学薬学府・医学部
2024·2025

千葉大学

大学院医学研究院
大学院医学薬学府
医学部

CHIBA UNIVERSITY

GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE
GRADUATE SCHOOL OF MEDICAL AND PHARMACEUTICAL SCIENCES
SCHOOL OF MEDICINE

2024·2025

CHIBA UNIVERSITY

目次

Index

千葉医学	1
医学部概況	4
トピックス	6
機構図	8
研究領域紹介	10
医学薬学府研究院等関連図	19
病院組織機構図	20
附属施設紹介	21
データ	25
プロジェクト	32
沿革図	36
沿革	38
歴代学部長・研究院長等	44
亥鼻地区の記念碑等	45
土地・建物一覧	48
アクセス	49
千葉大みらい医療基金	50

begin.continue
千葉大学大学院医学研究院・医学部

約150年もの長きにわたり受け継がれてきた医学の伝統と誇り

“千葉医学”（CHIBA MEDICINE）は、明治7年（1874年）に千葉大学医学部のルーツである共立病院が地域住民等の醵金により建てられて以来、約150年に及ぶ、千葉大学医学部の伝統と達成された成果を包括する概念です。

千葉医学 三つの教え

千葉医学には、先達から引き継がれた伝統に裏打ちされた3つの教えがあります。

獅胆鷹目行以女手
（したんようもくおこなうにじょしゅをもってす）

「獅子のように細心にして大胆且つ動じない胆力、鷹のように諸事を見通し、判断、解決できる眼力、女手のように臓器を柔らかく扱い緻密に行える手技」という教え

begin.continue

Beginning is half the success, not giving up on the way is complete success.
「始めることが半分成功したことで、止めないことが成功すること」
旧第二外科教授の中山恒明（1910-2005）の残した言葉

人間の尊厳

山浦晶元病院長が中心となって作成した大学病院の基本理念、「人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める」に由来した教え

千葉大学医学部の使命（ミッション）

千葉大学医学部は、人類の健康と福祉に貢献すると共に次世代を担う有能な医療人・研究者を育成し、疾病の克服と生命現象の解明に向けて挑戦を続けます。

千葉大学医学部学生の学習成果（アウトカム）

千葉大学医学部の学生は、つねに、より高きものをめざして、千葉大学医学部の使命（ミッション）および千葉医学の理念に基づき、卒業時に以下のコンピテンシーを達成します。

I 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉大学医学部学生は、卒業時に責任をもって医学・医療を実践するために以下の行動ができる。

1. 広い視野を持ち、豊かな人間性を涵養できる。
2. 倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。
3. 法的規範を遵守し、行動に責任を持つことができる。
4. 個人の尊厳を尊重し、心理・社会的要因と多様性を理解し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。
5. チームの目標を達成するために、リーダーシップやフォロワーシップを発揮して、多職種連携を実践できる。
6. 常に自己の心身と社会的状態を評価し、良好な状態（ウェルビーイング）を保つことができる。
7. 他者に対して指導や支援を求めることができ、自らも指導や支援をすることができる。
8. 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。

II コミュニケーション

千葉大学医学部学生は、卒業時に良好な人間関係を構築し、情報を適切に取り扱い、わかりやすく伝えるために、以下の行動ができる。

1. 個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴し、共感、理解、支持的態度を示し、信頼関係を築くことができる。
2. 他者やそれを取り巻く状況に配慮しながら、適切な方法で、必要な情報収集や情報伝達を行うことができる。
3. 様々なメディアを活用して適切に情報を収集し、吟味し、発信することができる。

III 医学・医療および関連領域の知識と応用

千葉大学医学部学生は、卒業時に医学・医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。

1. 人体の構造と機能
2. 発達、成長、加齢、死
3. 心理と行動
4. 病因と病態
5. 診断
6. 治療、予防
7. 疫学、統計
8. 保健・医療・福祉制度
9. 医療関連法規
10. 医療経済
11. 情報・科学技術
12. 医学・医療英語

IV 診療の実践

千葉大学医学部学生は、卒業時に患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。

1. 医療面接を実施できる。
2. 身体診察を実施できる。
3. 基本的臨床手技を実施できる。
4. 感染対策を実施できる。
5. 臨床推論により診断ができる。
6. 検査の必要性を判断し、検査結果を解釈できる。
7. 治療計画を提案できる。
8. 医療文書を作成できる。
9. 状況に即したプレゼンテーションができる。
10. Evidence-based medicine（EBM）を実践できる。
11. Shared decision making（SDM）を実践できる。
12. 情報・科学技術を活用した診療を必要に応じて実践できる。

V 社会と医療

千葉大学医学部学生は、卒業時に個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。

1. 健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health: SDH）の観点から、患者・生活者を理解できる。
2. 保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。
3. 患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。
4. 個人の多様性を受容し、活躍することを支援できる。
5. 個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。
6. 広い視野から保健・医療・福祉の課題の改善に努めることができる。

VI 科学的探究

千葉大学医学部学生は、卒業時に常に探究心を持ち、未知・未解決の科学的問題の解決に向けて、以下のことができる。

1. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解できる。
2. 新しい科学的知見について、論理的・批判的な思考ができる。
3. 学術・研究活動等に参画し、自らの役割を果たすことができる。
4. 自らが関与した学術的成果を口頭および文書で発表できる。

医学部概況 Overall


新築直後の千葉医科大学本館及び基礎医学教室航空写真（昭和5年ごろ）

医学部の歴史は古く、その創設は明治7年（1874年）に遡る。当時、衛生医事に関心の厚い千葉町、寒川村、登戸村等の有志の醵金によって、千葉町に共立病院が設立されたのがそもそもの始まりである。

その後、明治9年（1876年）に公立に移管し、公立千葉病院となり、同時に院内に医学教場が付設されて、医学教育の第一歩を踏み出した。

明治15年（1882年）に同病院が改組されて県立千葉医学校及び附属病院となり、医学教育の場として益々本格的な活動に入った。

明治20年（1887年）に官立に移管され、第一高等中学校医学部となり、その後、第一高等学校医学部、千葉医学専門学校と変遷を経て、大正12年（1923年）には更に千葉医科大学に昇格した。

以後、千葉医科大学は幾多の研究業績により、その名は全国に知れ亘るところとなり、日本医学界の発展に貢献してきた。

昭和24年（1949年）に新制の国立総合大学として千葉大学が発足した際、千葉医科大学は千葉大学医学部となり、以後時代の要請とともに逐年拡充されてきた。

昭和30年（1955年）から大学院医学研究科（博士課程）が設置され、平成10年（1998年）からは、大学院医学研究科に独立専攻として高次機能系専攻が設置された。

平成13年（2001年）大学院医学研究院、大学院医学薬学府が設置された。

平成16年（2004年）学内共同教育研究施設としてバイオメディカル研究センター（旧遺伝子実験施設）が新たに建築された医薬系総合研究棟に設置された。

平成17年（2005年）医学薬学府に医学系修士課程（医科学専攻）、学内共同教育研究施設として社会精神保健教育研究センターが設置された。

平成19年（2007年）学内共同教育研究施設として予防医学センターが新たに柏の葉キャンパス地区に設置されるとともに、経済産業省所管の中小企業基盤整備機構により、千葉大学亥鼻イノベーションプラザがインキュベーション施設としては日本で初めて医療系キャンパス内に設置され、産学連携による先端医療の開発・研究基盤が整備された。

平成20年（2008年）には医学部附属病院の新病棟が竣工し、医療環境の充実化を図ると共に未来開拓センターを開設し、最先端医療の開発・実行のための基盤が整った。

平成24年（2012年）および平成26年（2014年）には大学院医学研究院の改組が行われ、現在、2研究部門9講座の他、附属施設等において数多くの研究者が各分野において日進月歩の医学界に貢献している。

令和3年（2021年）4月に医学系総合研究棟（治療学研究棟）が完成し、長く使用していた医学部本館から教育・研究の場を移した。

千葉大医学部の先人たち



中山　恒明 先生

食道がん外科治療の世界的なパイオニア。シカゴの国際外科学ミュージアムに業績が展示されている。



川崎　富作 先生

乳幼児の急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群を発見。「川崎病」と名づけられ、新疾患として国際的に認められた。



多田　富雄 先生

世界的免疫学者で抑制性（制御性）T細胞の発見者。また、新作能や多くの優れたエッセイの著作で有名、文化功労者。

未来を見据えた治療学研究の推進・実装と グローバルに活躍できる医療・医学の人材育成を目指して



医学研究院長・医学部長
三木 隆司

千葉大学医学部は2024年に創立150周年を迎えました。わが国にはこれをはるかに遡る昔から医学・医療は存在しましたが、現在に繋がる医学・医療の研究・教育体制は明治維新以降に構築されました。千葉大学医学部は、明治7年（1874年）に設立された共立病院を礎としておりますので、我が国でも有数の長い歴史を誇る医学校の一つであります。

150年に渡る長い歴史の中で、千葉大学医学部は数多くの優れた医師や医学研究者を輩出して参りました。千葉大学医学部のこれまでの足跡を顧みると、その特色・強みは、医学研究を疾患病態の理解に止めることなく、新たな治療法の創出にまで繋げていることが挙げられます。このことから近年、千葉大学医学部ではこのような学問体系を「治療学」と名付け、この「治療学」を旗印に基礎・臨床研究部門が融合しながら医学研究・人材育成に邁進しております。

2020年初頭に始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は、世界中に恐怖・混乱と社会変革を招きました。その後、漸くポストコロナの時代を描けるところまで辿り着きましたがその終息にはほど遠く、また次なる新興感染症に対する備えも十分ではありません。こうした中2022年に、日本医療研究開発機構（AMED）が先導する「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」が始まり、千葉大学は、フラッグシップ拠点の東京大学と連携して研究を進める全国4つのシナジー拠点の1つに採択され、ワクチン開発研究の国家プロジェクトの一翼を担っています。また2021年に千葉大学に設置された災害治療学研究所では、COVID-19に代表される新興感染症や自然災害による健康被害から国民を守ることを目標としていますが、千葉大学医学部では災害治療学研究所との緊密な連携の下で、本シナジー拠点を核としたワクチン開発研究を進める体制が構築されました。

COVID-19のパンデミックは、この新規感染症に対する医学的な治療・感染対策の難しさに加え、医療過疎地での医療体制の問題点も浮き彫りにしました。これに対し文科省は、複数領域にわたる医療課題に弾力的に対応できる医療人材の育成を目指し、2022年度に「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」を開始しました。千葉大学医学部はこの教育推進事業の一つに採択され、「地域医療への高い情熱と好奇心を涵養して総合力・適応力・教育力を醸成する地域志向型医療人材養成プログラム」を進めています。また、2024年4月より医師に新たな労働時間の上限が規定される「医師の働き方改革」がスタートし、効率よく優れた医師を育成する必要があり、それについても2023年度から文科省が主導する、「質の高い臨床教育・研究の確保事業」の4拠点の1つに採択され、千葉大学で特徴ある先導的な包括的臨床教育研究支援プログラムがスタートしました。またこの事業では、優れた臨床教育の実践と並行して、近年国際的な競争力が低下している医学研究力の向上も求められていますが、千葉大学の拠点では附属病院に設置された臨床試験部の主導の下、臨床研究を担う人材の育成と研究体制の整備が進められています。

この様に医学部のミッションは古今東西を問わず、医学研究の推進、医療人の育成、優れた医療の提供ですが、千葉大学医学部・大学院医学研究医院では、これからもこの3つの歯車を連動させながら治療学の歩みを着実に進めていけることを願っております。

トピックス

Topics

千葉大学医学系総合研究棟
（治療学研究棟）

千葉大みらい医療基金を設立

日本医学教育認証評価評議会
（JACME）より認定

「卓越大学院プログラム」に採択

カリフォルニア大学サンディエゴ校に
共同研究拠点を設置

亥鼻キャンパス



アクティブ・ラーニング・スペース「智慧と歴史」

千葉大学大学院医学研究院・医学部は令和3年4月に2年の建設期間を経て完成した医学系総合研究棟（治療学研究棟）へ移転し、新しい施設・環境を得ることとなりました。従来の学舎である医学部本館は関東大震災後に建設され、当時東洋一の病院と謳われた重厚な建築物でしたが、完成から84年が経過し、老朽化も著しく新たな学舎の建設に至りました。

医学系総合研究棟は最新の医学教育ならびに本学の推進する「治療学」の発展のため、附属病院と渡り廊下で接続することで診療から研究、研究から診療へのスムーズな移行が可能となっているほか、同一フロアに関連性のある臨床系研究室と基礎系研究室を配置し、研究者や学生が自然と専門分野の垣根を越えて議論し知恵を結集し、成果を創出する環境となりました。

研究



医学研究の推進

2020年4月、千葉大みらい医療基金が設置されました。基金は、医学研究院の最先端医学研究推進及び研究環境整備に充てるため、医学部独自の財源確保を可能とする制度として創設されたものです。これまで千葉大学医学部・医学研究院には一般の方からの寄附金制度がありませんでした。国立大学法人化後、大学は運営費交付金の削減と教員定員の削減が課せられ、これまでは多くの外部研究資金を確保して研究を行ってきましたが、それだけでは若手研究者の支援、長期にわたる研究実施が難しく、また、優秀な研究者を長期雇用できない等の問題がありました。基金では特に、①若手研究者の研究推進、②新しい治療学研究棟での研究環境整備、③将来を担う医学部学生や大学院生の教育などに活用していきます。

教育



2020年実地審査の様子

2010年の米国の外国医学部卒業生のための教育委員会（ECFMG：Educational Commission for Foreign MedicalGraduates）からの通告を受け、2015年、日本の医学部の認証評価を実施する組織として日本医学教育認証評価評議会（JACME：Japan Accreditation Council for Medical Education）が発足され、世界医学教育連盟（WFME：World Federat ion for Medical Education）のグローバルスタンダードに準拠した基準を作成し認証評価を実施しています。千葉大学医学部では、2020年12月に2巡目実地審査がオンラインで行われ、2021年10月1日から2028年9月30日まで適合の認定を受けました。今後も本学部医学教育のさらなる発展に努めてまいります。

大学院



「革新医療創成CHIBA卓越大学院」の概要図

2019年8月、文部科学省「卓越大学院プログラム」に千葉大学大学院医学研究院「革新医療創成CHIBA卓越大学院」が採択されました。本プログラムでは、理化学研究所やUC San Diego等の国内外の一流研究機関及び国内企業と連携し、新しい大学院教育「クラスター制CHIBA教育システム」の下、様々な分野のトップの大学院生が、所属機関や部局等の既成の枠を越えて組織された6つの教育研究クラスターの複数クラスターで学修し、主体的に自ら切磋琢磨することで、複数の分野で主専攻とサブ専攻を修め、俯瞰力と多角的な視点、柔軟な思考、イノベーションマインド、失敗を恐れないスピリッツとレジリエンスを有する世界を先導する革新医療創生のイノベーターを育成することが期待されています。

海外交流



2018年3月第2回シンポジウム

千葉大学は2016年4月にカリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）医学部にサンディエゴ研究センターを設置しました。UCSDはノーベル賞受賞者を多数輩出した大学で、免疫学、システム生物学、メタボロミクス、天然物化学研究が盛んであり、アレルギーの基礎研究においても優れた成果を出している全米トップクラスの大学です。

このサンディエゴ研究センターと亥鼻キャンパスに設置した千葉研究センターを中心に活発な交流活動が展開され、UCSDおよび千葉で3回の共同シンポジウムを開催したほか、UCSDの卓越した研究者とクロスアポイントメント契約を行うなど、共同研究を推進しています。



機構図

Organization Chart

- 大学院医学研究院
  - 中核研究部門
    - 脳・神経治療学研究講座（脳と神経を理解し治療する）
      - 遺伝子生化学
      - 認知行動生理学
      - 機能形態学
      - 精神医学
      - 眼科学
      - 脳神経内科学
      - 脳神経外科学
      - 整形外科学
    - 呼吸・循環治療学研究講座（呼吸と循環の恒常性を保つ）
      - 薬理学
      - 診断病理学
      - 呼吸器内科学
      - 循環器内科学
      - 呼吸器病態外科学
      - 心臓血管外科学
      - 麻酔科学
    - 消化器治療学研究講座（消化・吸収・排泄の病を治す）
      - 病態病理学
      - 消化器内科学
      - 腎臓内科学
      - 臓器制御外科学
      - 先端応用外科学
    - 生命機能治療学研究講座（生命を探求し治療に活かす）
      - 病原細菌制御学
      - 感染病態学
      - 感染生体防御学
      - 産婦人科学
      - 泌尿器科学
      - 分子病態解析学
      - 救急集中治療医学
      - 皮膚科学
      - 小児外科学
      - 形成外科学
    - 環境健康科学講座（健康を科学し医療に活かす）
      - 環境生命医学
      - 公衆衛生学
      - 環境労働衛生学
      - 法医学
      - 和漢診療学
      - 医学教育学
      - 診断推論学
      - 臨床研究・治療評価学
      - 医療情報学
      - 薬物治療学
  - 先端研究部門
    - 先端がん治療学研究講座（癌を克服する）
      - 腫瘍病理学
      - 免疫細胞医学
      - 機能ゲノム学
      - 口腔科学
      - 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学
      - 画像診断・放射線腫瘍学
      - 臨床腫瘍学
    - 高次機能治療学研究講座（次世代医学を探求する）
      - 代謝生理学
      - 疾患生命医学
      - 発生再生医学
      - アレルギー・臨床免疫学
      - 実験免疫学
      - 免疫発生学
      - 分子腫瘍学
      - 細胞分子医学
      - 動物病態学
      - 内分泌代謝・血液・老年内科学
      - 小児病態学
      - 臨床遺伝子応用医学
    - 未来医療グローバル治療学研究講座（グローバルな医学を展開する）
      - 国際アレルギー粘膜免疫学
      - 未来医療推進治療学
      - グローバル臨床試験学
    - イノベーション治療学研究講座（新規治療を開発する）
      - イノベーション医学
      - イノベーション再生医学
      - 疾患システム医学
      - オミクス治療学
      - 人工知能（AI）医学
  - 総合医科学講座（東金九十九里地域医療センターを支援する）
  - 連携講座
    - 精神神経科学連携講座
    - 医療行政学連携講座
    - 分子腫瘍生物学連携講座
    - 放射線防御機能学連携講座
    - 免疫制御学連携講座
    - ゲノム医科学連携講座
    - 医療機器国際基準認証学連携講座
    - 国際粘膜免疫・病態制御学連携講座
    - 産学連携治療学連携講座
    - 病理解析工学連携講座
    - マクロ病理診断学連携講座
    - 統合微生物学連携講座
  - 寄附講座
    - 不整脈先端治療学寄附講座
    - 先端脊椎関節機能再建医学寄附講座
    - 次世代型健康長寿ホルモンアカデミー寄附講座
    - 運動器科学革新医療創成寄附講座
    - 分子病態治療学寄附講座
    - MR画像誘導即時適応放射線治療学寄附講座
    - 先端再生形成外科学寄附講座
    - 地域消化器内科人材育成・調査研究寄附講座
    - 千葉県寄附講座 地域医療教育学講座
    - 不整脈先進医工学寄附講座
  - 共同研究講座
    - 次世代予防医療創生講座
  - クリニカル・スキルズ・センター
  - 法医学教育研究センター
  - 超高齢社会研究センター
  - 国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター
  - 治療学人工知能（AI）研究センター
  - 動物実験施設
- 大学院医学薬学府（医学領域）
  - 医科学専攻（修士課程）
  - 先端医学薬学専攻（4年博士課程）
  - 先進予防医学共同専攻（4年博士課程）
- 医学部
  - 医学科
  - 医学教育研究室
  - 附属病院

研究領域紹介

Introduction of Researchers

（令和６年10月１日現在）



脳・神経治療学研究講座

馬場 隆之 教授

眼科学
Department of Ophthalmology and Visual Science

研究テーマ
網膜色素変性への電気生理学的アプローチによる治療開発、網膜神経保護や網膜再生に関する基礎的研究、難治性網膜硝子体疾患に対する治療に関する臨床研究等を行っています。

教育 学部教育は視覚の重要性および全身疾患との関わりを中心に、大学院教育では視覚情報処理と視機能再生にかかわる研究を進めるための思考力と技術の習得を目指しています。

メッセージ 視機能の維持向上を目標に、網膜神経保護・網膜再生に関する基礎的研究及び難治性眼疾患の診療を行っています。小さな臓器ですが、奥深い眼科をライフワークにしませんか？



脳・神経治療学研究講座

桑原 聡 教授

脳神経内科学
Department of Neurology

研究テーマ
神経疾患の新規治療の開発を目指した病態研究・臨床研究を推進している。脳機能画像・免疫学・イオンチャネル生理学・分子生物学的アプローチを行なっている。

教育 学部では系統講義、臨床実習、臨床研究への参加を実施。大学院では神経免疫学、イオンチャネル生理学、神経画像を駆使した集学的な疾患へのアプローチを学ぶプログラムを組んでいる。

メッセージ 神経系の神秘と臨床神経学・神経科学の魅力を実感できる臨床・研究を行なうことにより、すぐれた臨床医、独創的な研究者の育成と患者に還元できる医療・研究を目指しています。



脳・神経治療学研究講座

樋口 佳則 教授

脳神経外科学
Department of Neurological Surgery

研究テーマ
脳神経外科学は、脳腫瘍、脳血管障害、機能的疾患、中枢神経系外傷、水頭症、脊椎・脊髄疾患など多岐にわたる分野の病態・治療に関して研究しています。

教育 脳の機能を確実に理解し、病態の解明、新たな治療の開発を目指しています。集学的なアプローチが要求される分野であり、広い視野をもった人材の育成を心がけています。

メッセージ 脳神経外科医は脳に直接触れることを許された、唯一の専門医です。病態解明、機能改善・再建を目指す臨床・基礎研究を行い、いっしょに未来の医療を作りましょう。



脳・神経治療学研究講座

大鳥 精司 教授

整形外科学
Department of Orthopaedic Surgery

研究テーマ
脊椎・関節を中心とした運動器慢性疼痛の病態解析と総合的画像診断、iPS細胞や関連技術による軟骨再生・末梢神経再生、最新の手術治療など、先進的な整形外科臨床・基礎研究を行う。

教育 専門的知識とプライマリケアの現場で必要とされる普遍的知識を織り交ぜながら、考察力と応用力をバランス良く獲得することを目的とした整形外科教育を心がけています。

メッセージ 近年の高齢化社会では整形外科医のニーズはますます高まっています。常に新しい知見を取り入れ本邦の整形外科を牽引する当教室で、これからの日本を支えていきましょう。



脳・神経治療学研究講座

岩瀬 克郎 講師

遺伝子生化学
Department of Biochemistry and Genetics

研究テーマ
日周リズム、神経可塑性、神経変性疾患、血管新生制御等について、それら生理病理現象を司る遺伝子の同定、分子レベルでの機能および調節機構の解明に取り組んでいます。

教育 医学の諸分野における解析や実地臨床に役立つ化学的知識・思考力の習得を目指し、生化学（サブユニット：遺伝・タンパク生化学）の講義・実習を実施しています。

メッセージ 当領域では、生化学・分子遺伝学に立脚した生命科学研究を行っており、その成果が、医学の基礎的理解の深化と、健康増進、各種疾患の克服に繋がることを願っております。



脳・神経治療学研究講座

清水 栄司 教授

認知行動生理学
Department of Cognitive Behavioral Physiology

研究テーマ
こころと脳の科学をきわめる。情報化社会で脳が適切に機能する認知と行動と感情のバランスを目指すメンタルヘルスの治療学を推進する。特に、デジタル治療の研究を行う。

教育 学部では行動科学と神経生理学を担当。大学院の博士・修士課程では不眠、不安うつ、摂食、発達などの認知行動療法を研究できる医療人材養成、脳画像等の研究教育を推進。

メッセージ 医師、看護師、薬剤師、公認心理師、作業療法士、教諭など多様な対人支援職が対面、オンライン、アプリ等を活用した臨床試験等を行い、Evidence Base Medicine について深く学べます。



脳・神経治療学研究講座

山口 淳 教授

機能形態学
Department of Functional Anatomy

研究テーマ
当研究領域は、「認知機能の神経基盤となる神経束ネットワーク」と「神経難病への挑戦」を２大テーマとして、基礎医学的な神経科学研究を行っています。

教育 学部教育では、組織学、神経科学（神経解剖）を担当。大学院教育では、脳の形態や機能に関する先端生命科学特論（修士課程）、神経機能構造学（博士課程）を担当。

メッセージ 当研究室は脳システム科学と神経難病を形態学的な視点から研究しています。高次脳機能障害や神経難病の病態解明、診断・治療法開発に役立てればと考えております。



脳・神経治療学研究講座

新津 富央 准教授

精神医学
Department of Psychiatry

研究テーマ
統合失調症及び気分障害の病態解明及び予防法・治療法の開発。災害精神医学。スポーツ精神医学。

教育 学部教育：精神医学
大学院教育：精神医学、リエゾン精神医学、精神薬理学、薬理遺伝子学、脳機能画像学、精神保健予防医学。

メッセージ 認知行動生理学教室や、社会精神保健教育研究センター、子どものこころの発達教育研究センター、と密接な連携を取り、様々な活動を行っております。



呼吸・循環治療学研究講座

安西 尚彦 教授

薬理学
Department of Pharmacology

研究テーマ
尿酸・有機酸・薬物・アミノ酸のトランスポーター機能解析、ペプチドの中枢作用、摂食・飲水調節機構の解明、脳虚血時における乳酸輸送体の機能解析。

教育 学部教育では薬物の生体への作用機構を学び、薬物療法の基盤を確かなものにすること、大学院では「創薬」を常に意識した研究の実施をめざしております。

メッセージ より良い薬を患者さんの元へお届けできるよう、日々研究を進めています。同時に「薬」に関する広汎な知識を基に、リーダーとして医療を主導する医師の育成を目指します。



呼吸・循環治療学研究講座

池田 純一郎 教授

診断病理学
Department of Diagnostic Pathology

研究テーマ
様々な悪性腫瘍における幹細胞的性格を制御する因子の解明を目指した研究。悪性腫瘍を中心とした種々の疾患の臨床病理学的・分子生物学的解析。

教育 学部教育では病理学総論・各論ならびにクリニカルクラークシップを担当。大学院教育では病理組織形態の裏にあるメカニズムの解明を目指した研究の指導を行っている。

メッセージ 日々の病理診断・病理解剖業務を通して生じた疾患の様々な疑問を、病理組織学的・分子生物学的手法を用いて解明していくことを目指しています。



呼吸・循環治療学研究講座

鈴木 拓児 教授

呼吸器内科学
Department of Respirology

研究テーマ
難治性呼吸器疾患、とくに肺高血圧症、悪性疾患、間質性肺炎、COPD、稀少疾患などを中心に、病態解明と新規治療法開発を目指した臨床研究および基礎研究を進めている。

教育 学部教育は呼吸器内科全般の講義および臨床実習。大学院教育では専門知識と技能の習得および研究マインドをもつ呼吸器専門医・Physician scientist の育成。

メッセージ 最先端の知識と技術で呼吸器難病を解明し患者への還元を目指します。多彩な呼吸器疾患の疑問をともに深く考えて解決していく、やる気のある方々の参加を歓迎しています。



呼吸・循環治療学研究講座

小林 欣夫 教授

循環器内科学
Department of Cardiovascular Medicine

研究テーマ
心筋・血管再生、血管再生治療、虚血性心疾患の病態・治療（インターベンション）、不整脈の病態・治療、CT・エコー・MRI・PET・RI などの循環器画像診断。

教育 学部教育では循環器内科学の講義、クラークシップおよびシミュレーターを用いた実習を実施。大学院では循環器各分野の専門医師の研究指導で学会発表、論文執筆を目指す。

メッセージ 地域医療から最先端研究まで医局医師が幅広く活躍し、国内外の学会発表・論文執筆・診療でも実績を伸ばしています。出身経験を問わずいつでも入局を歓迎します。



呼吸・循環治療学研究講座

鈴木 秀海 教授

呼吸器病態外科学
Department of General Thoracic Surgery

研究テーマ
肺癌を始めとする胸部腫瘍の診断、治療システムの構築。呼吸器外科治療に関連した基礎及び臨床研究を発展させ、肺移植の最適化、呼吸器インターベンションの研究。

教育 学部教育では呼吸器外科学総論、各論、肺移植の外科治療。卒後教育では検体を用いたトレーニングを実施し、大学院教育では胸部腫瘍学、肺移植研究に力を入れている。

メッセージ 胸部悪性腫瘍に対する需要は年々高くなっており、国民的、世界的課題です。肺移植も充実期を迎えつつあります。これを支えるアカデミックサージョンの育成を目指します。



呼吸・循環治療学研究講座

松宮 護郎 教授

心臓血管外科学
Department of Cardiovascular Surgery

研究テーマ
重症心不全の治療法開発を主要なテーマとし、移植心虚血再灌流障害制御、補助人工心臓による自己心回復のメカニズム、心筋の再生療法などの研究。

教育 学部教育では心臓血管外科学の講義、アドバンストコース心臓血管外科ベッドサイドラーニングを担当。大学院博士課程では上記テーマに関する基礎的および臨床的研究を指導。

メッセージ 豊富な手術症例から得られたデータをもとに臨床における疑問点の解決を目指し、また「ベンチからベッドサイドへ」を実践すべく臨床応用を目的とした基礎研究を行っています。



呼吸・循環治療学研究講座

長谷川 麻衣子 教授

麻酔科学
Department of Anesthesiology

研究テーマ
炎症記憶と慢性痛の発症機序に関する研究、生体侵襲と小胞体ストレス応答、全身麻酔下の呼吸整理に関する基礎研究、気道管理・非心臓手術後心筋障害に関する臨床研究。

教育 麻酔科学、疼痛・緩和医療学、救急・集中治療医学、呼吸・循環生理学など異なる視点から全身管理を学び、横断的かつ包括的に次世代医療に貢献する医師を育成します。

メッセージ 高齢化・高度医療の進歩に伴い、アカデミックな思考や高い専門性に基づいて、安全な全身管理に徹することのできる麻酔科医の需要は急増しています。一緒に学びませんか？



消化器治療学研究講座

岸本 充 准教授

病態病理学
Department of Molecular Pathology

研究テーマ
❶ AFP 産生腺癌の発生や生物学的悪性度に関する研究
❷ 消化器系疾患や消化器腫瘍の病理組織学的および分子病理学的研究。

教育 医学部では病理学総論・各論の講義と実習を担当。スカラーシップとして手術症例や剖検症例の病理学的検討を指導している。また、有志には学会発表を指導している。

メッセージ 病理組織学的に観察される細胞や組織形態の変化が生物学的にどのような意味を持つのか、そして、その臨床的な有用性について研究しています。



生命機能治療学研究講座

清水 健 准教授

病原細菌制御学
Department of Molecular Infectiology

研究テーマ
先進国で社会問題化している病原性大腸菌 O157 等の毒素や抵抗因子などの作用機序を分子レベルで研究し、細菌感染症の予防・治療に新たな道を切り開くことを目指している。

教育 講義では病原細菌の病原性を理解することを目的とし、実習では病原細菌を実際に自分の手で取り扱う技術を修得し、将来細菌感染症に向き合う際に役立つように心がけている。

メッセージ 病原細菌の抵抗因子や細菌毒素の産生機構や作用機序の解析とそれらによる病原性発現機構の解明を通して臨床応用を目指します。多くの学生・研究者の参加を歓迎します。



生命機能治療学研究講座

齋藤 謙悟 准教授

感染病態学
Infectious Diseases Pathobiology

研究テーマ
腫瘍融解ウイルスの融解機構と臨床応用、腫瘍ウイルス（パピローマウイルス）の発がん機構、肝炎ウイルスの発がん機構、RS ウイルスの治療薬に関する研究を行っている。

教育 学部教育：ウイルスの基礎と感染症の病原ウイルス、ウイルス実習、生命科学特論（感染症）
大学院教育：生体防御医学・実習、ワクチン学・感染症学特論。

メッセージ ウイルス研究は、感染症に留まることなく多くの疾患の病態解明・治療に役立ってきました。ウイルス研究を、様々な疾患の病態解明・治療に役立てたいと考えています。



生命機能治療学研究講座

彦坂 健児 准教授

感染生体防御学
Department of Infection and Host Defense

研究テーマ
寄生性原虫類のミトコンドリア、色素体、オートファジー関連分子、臓器トロピズム、侵入機序について基礎的研究を行い、臨床医学分野への貢献を目指しています。

教育 学部教育：寄生虫学全般
大学院教育：感染生体防御学、生体防御医学特論

メッセージ 寄生虫ほど複雑で興味深い生き方をしている生物は他に類を見ません。研究は一筋縄ではいきませんが、ともに誰も知らない世界を覗いてみたい方、お待ちしております。



生命機能治療学研究講座

甲賀 かをり 教授

産婦人科学
Department of Obstetrics and Gynecology, Reproductive Medicine

研究テーマ
婦人科癌・絨毛性疾患、子宮内膜症・筋腫、内分泌異常、さらに、周産期合併症、不妊・不育症といった幅広い疾患・病態の原因解明と治療法の開発・最適化を目指しています。

教育 学部教育：将来何科に進んでも必要な産婦人科学の基礎教育。
大学院教育：臨床医ならではの視点に立って基礎研究を計画・実践できるフィジシャンサイエンティストの育成。

メッセージ 女性の一生に関わる様々な疾患・病態を扱うプロフェッショナルです。臨床の「なぜ」を、研究で「解決」し、未来の、世界の、女性の幸せに「貢献」できる仕事をしましょう。



消化器治療学研究講座

加藤 直也 教授

消化器内科学
Department of Gastroenterology

研究テーマ
肝胆膵疾患および消化管疾患の病態解明と新規治療法創出。

教育 多様性を尊重しながら、臨床医としてのスキル向上と研究マインド育成を行い、真の消化器内科プロフェッショナルを養成します。

メッセージ 消化器内科は多様な疾患を扱う領域ですが、特に悪性腫瘍の治療は重要課題です。「アンメットニーズに挑む」をモットーに新規治療法開発の礎になる先駆的研究を展開します。



消化器治療学研究講座

淺沼 克彦 教授

腎臓内科学
Department of Nephrology

研究テーマ
❶ 慢性腎臓病の進行メカニズムの解明による新規バイオマーカー創出と新規治療法開発。
❷ 腎発生・老化のメカニズムの解明。
❸ 血液透析の AI 診療支援システム開発。

教育 講義では、臨床医として持つべき腎臓内科分野の知識を幅広く習得ができるようにします。大学院教育では、臨床へ還元できるような研究医の育成を心がけます。

メッセージ 慢性腎臓病からの透析導入患者を減らすために高い目標を持って創薬・診断法の開発に挑戦しています。同時に、リサーチマインドを持った腎臓内科医の育成を目指しています。



消化器治療学研究講座

大塚 将之 教授

臓器制御外科学
Department of General Surgery

研究テーマ
肝胆膵悪性腫瘍及び乳癌の進展機序の解明。新規バイオマーカー同定及び治療法の開発。肝胆膵高度侵襲手術時の生体反応とその対策。移植免疫、画像ナビゲーション手術。

教育 肝胆膵外科学及び乳腺外科学を学ぶことで臨床医としての技量・知識を高めていくとともに、大学院教育では臨床・基礎研究を通じ次世代に貢献できる外科医を育てます。

メッセージ 肝胆膵外科及び乳腺外科領域で世界最高水準の外科診療の提供を心掛けるとともに、診療・研究を通してアカデミックマインドを有する情熱的な外科医の育成を目指します。



消化器治療学研究講座

松原 久裕 教授

先端応用外科学
Department of Frontier Surgery

研究テーマ
消化器癌の診断・治療学。腎移植外科の発展。低侵襲化手術や新規術式の開発。化学・放射線療法、分子治療、免疫細胞療法を軸に新たな複合的治療法の開発を行っている。

教育 消化器外科学（食道・胃・大腸外科・肥満症外科）腎移植外科を根幹とし、遺伝子、分子の発現、細胞の機能、腫瘍の動向など高次の腫瘍学が理解できるように努めている。

メッセージ 消化器・一般外科学の基本を習得した上で、研究マインドを養成します。また、多様な知識から新しい発想の診断、治療法を生み出すための豊かな創造力を養成します。



生命機能治療学研究講座

市川 智彦 教授

泌尿器科学
Department of Urology

研究テーマ
前立腺癌の進展に関連するバイオマーカーの同定と去勢抵抗性前立腺癌に対する新規治療法の開発、尿路悪性腫瘍の進展、副腎腫瘍や尿路結石症の研究を行っている。

教育 学部教育ではユニット講義、臨床実習 II を担当している。大学院教育では主に前立腺癌をテーマとして泌尿器科学に関する研究の指導を行っている。

メッセージ da Vinci システムを用いた先進医療や低侵襲治療の導入、新規治療の開発を目指した基礎的研究の遂行を通じて、surgeon scientist を目指す若手医師を応援しています。



生命機能治療学研究講座

田中 知明 教授

分子病態解析学
Department of Molecular Diagnosis

研究テーマ
基礎と臨床の架け橋を目指し、最先端技術であるシングルセルや空間トランスクリプトーム解析およびゲノム編集技術を駆使した疾患分子病態解明と臨床応用研究を推進します。

教育 遺伝子診断学、遺伝分子医学、医臨床検査、臨床遺伝ユニット、臨床内分泌学、CC ベーシック（医学部）、生命情報科学（博士課程）、遺伝情報応用学特論（修士課程）

メッセージ がんや内分泌代謝性疾患を軸に、グローバルな「人」材育成、先端的「技」術習得・生命の「智」の理解を通じ、次世代の分子病態解析と革新的診断 / 治療法開発を展開します。



生命機能治療学研究講座

中田 孝明 教授

救急集中治療医学
Department of Emergency and Critical Care Medicine

研究テーマ
敗血症の病態にかかわる遺伝子多型・新規遺伝子の研究。救急 / 災害医療の課題を解決する ICT システム・生体情報装置開発。AI を用いた救急予測アルゴリズム開発。

教育 学部教育ではユニット講義・クリニカルクラークシップを担当。大学院教育では敗血症、新規人工補助療法や生体情報装置の開発、AI 画像診断支援等に関する研究を指導。

メッセージ 様々な救急集中治療領域の先進的研究を行っています。研究経験の有無は問いません。多くの仲間と研究に取り組むことができます。
「Let's enjoy exciting research!」



生命機能治療学研究講座

猪爪 隆史 教授

皮膚科学
Department of Dermatology

研究テーマ
❶ 皮膚悪性腫瘍（メラノーマ等）に対する T 細胞応答の解明と新規がん免疫療法の開発。
❷ データサイエンスによる難治性皮膚疾患診療の現状解析。

教育 学部では病態に基づいて各皮膚疾患を理解すること、大学院では医療の課題から立案した計画を皮膚免疫学、データサイエンス等の手法で検証することを学びます。

メッセージ 皮膚の機能は多彩で、疾患克服のためには免疫学、遺伝子学、データサイエンス等、多角的アプローチが必要です。各自の興味と特技を生かしつつ本質に迫れたらと思います。



生命機能治療学研究講座

菱木 知郎 教授

小児外科学
Department of Pediatric Surgery

研究テーマ
小児がんの個別化医療、先天異常発生の分子機構、胆道閉鎖症の病因と病態、外科代謝栄養、腸内細菌と疾患など、小児外科疾患全般の研究に広く取り組んでいます。

教育 学部教育では講義・実習を通して全人的な医療を実践できる医師を育成します。大学院教育では基礎系領域と共同研究により研究マインドを持った外科医の育成をめざしています。

メッセージ 小児外科は新生児から思春期の頸部から骨盤までを対象とするため、general surgeon としての幅広い知識と多彩な技術が要求されます。未来を創生する外科学で共に頑張りましょう。



生命機能治療学研究講座

三川 信之 教授

形成外科学
Department of Plastic and Reconstructive Surgery

研究テーマ
頭蓋顔面骨の形態異常および機能異常の病態と治療の研究、体表形態異常の再建治療の研究、脂肪幹細胞を用いた再生脂肪移植・再生骨移植の研究、リンパ浮腫治療の研究、皮弁血行動態の基礎的研究。

教育 学部学生には基本診療科の一つとしての形成外科の重要性、形態異常を持った患者の心的影響の考察、大学院生には形成外科専門分野の深淵を求めた上記テーマの如き基礎的研究の探求。

メッセージ 形成外科は顔面を中心とした体表形態異常の改善を目的に患者個々の QOL の向上を目標とした外科学の一つです。本領域における全国トップレベルの治療を進めています。



環境健康科学講座

森 千里 教授

環境生命医学
Department of Bioenvironmental Medicine

研究テーマ
環境要因・化学物質によるヒト健康影響に関する研究を発生学的視点から進め、発生・発達の乱れによる疾患の予防に関する研究、肉眼解剖とその応用臨床研究の探索と開発。

教育 学部教育：肉眼解剖学（骨筋学・発生学含む）
大学院教育：環境健康科学、サステイナブル環境健康科学、肉眼解剖学（修士課程）、環境医学、環境生命医学（博士課程）

メッセージ 環境と健康に関する研究・教育でのグローバル化を目指し、欧米、特に独・仏との連携を図っています。「千里の道も一歩から」を念頭に、高い目標に向かうラボを築きます。



環境健康科学講座

尾内 善広 教授

公衆衛生学
Department of Public Health

研究テーマ
難病などの原因の解明や、診断・治療・予防への応用を目指し、発症、重症化、治療やワクチンへの反応性に関わる遺伝子を特定する研究を行っています。

教育 公衆衛生学ユニット講義、地域医療実習（医学部）、遺伝分子医学（医学部、修士課程）を担当。修士課程では遺伝カウンセラー養成課程を担当している。

メッセージ ゲノム解析を通じた疾患の研究を進めています。「疾患の臨床的な課題を解決したい」、「病態の謎を明らかにしたい」、という情熱にあふれる方をお待ちしています。



環境健康科学講座

上原 孝紀 講師

診断推論学
Department of Diagnostic Medicine

研究テーマ
外来診断学、診断推論プロセスの解析、問診の操作特性、患者受療行動、遠隔診断・診療、AI 診断・模擬患者、領域横断的診療支援、医師偏在、医療の質・安全、医学教育。

教育 臓器横断的に、また生物・行動・社会・倫理的に問題解決を行う、診療スキルの教育。多様な診療セッティングにおいて、プライマリ・ケア診療を実践するスキルの教育。

メッセージ 診断推論学を軸とした問題解決スキルは臨床はもちろん、教育、研究成果に直結します。総合的な診断技術の世界のトップを目指して、教室員一丸となって日々活動しています。



環境健康科学講座

花岡 英紀 教授

臨床研究・治療評価学
Department of Clinical Research and Evaluation of the Medical Therapeutics

研究テーマ
臨床研究の科学的方法論および倫理的課題、医薬統計に関することを研究テーマとしている。臨床試験の計画立案から実施、ガイドライン作成、関連する行政的課題も取り上げる。

教育 臨床研究入門、応用、展開および医薬統計を通して、臨床研究の基本的な知識を学ぶとともに、研究を通じて課題解決を行い、実践的な知識を学ぶ。

メッセージ 臨床研究のゴールは成果を患者に届けることであり、その方法論を身に着け、研究者として学んだことを将来継続して実践できることを目指し、研究・教育を進めています。



環境健康科学講座

鈴木 隆弘 准教授

医療情報学
Department of Medical Informatics and Management

研究テーマ
医療情報学、電子カルテ、テキストマイニング、データマイニング、データモデル、M言語

教育 医療情報学、医療経済学、データベース、情報セキュリティ

メッセージ 全国的な医療データベースが整備され始め、解析手段も充実してきました。本講座では病院企画情報部と一体となってこれらに取組み、医療ビッグデータの活用に貢献しています。



環境健康科学講座

石井 伊都子 教授

薬物治療学
Department of Pharmacotherapy

研究テーマ
抗菌薬等の様々な薬物の臓器機能低下時における処方設計や副作用に関する研究、小児血管腫に用いる外用剤の開発、間葉系幹細胞の新規培養法などについて研究している。

教育 学部教育では、薬物動態学、薬理学、専門職連携教育（IPE）などに関する講義を担当している。大学院教育では生命倫理学特論、薬物療法情報学特論を担当している。

メッセージ 薬物治療は高度化に伴い治療成績の向上が得られていますが、同時にリスクも高くなっています。安全で安心な薬物治療の提供を目指した研究を進めています。



環境健康科学講座

諏訪園 靖 教授

環境労働衛生学
Department of Occupational and Environmental Medicine

研究テーマ
有害物質・微量元素の人体影響に関する疫学研究や、職域における健康管理に関する産業疫学的研究を実施しています。

教育 普遍教育：環境マネジメントシステム実習
学部教育：衛生学
大学院教育：環境労働衛生学、公衆衛生学

メッセージ 人間集団を対象にした先進的疫学研究手法の開発により、環境・労働衛生学・保健予防医学・国際共同研究の推進を図り、国民の健康の保持増進に貢献する事を目指しています。



環境健康科学講座

岩瀬 博太郎 教授

法医学
Department of Legal Medicine

研究テーマ
解剖、組織検査、画像検査、薬物検査等死因究明に必要な諸検査の精度を向上させる研究、筋挫滅症候群や熱中症におけるミオグロビンによる脂質酸化の関与に関する研究、CTを用いた身長・性別推定など法人類学的研究。

教育 講義及び実習だけでなく、解剖や諸検査の実務の見学を通し、法医学の目的を正しく理解する。

メッセージ 法医学は国民の権利を守る医学と定義できる幅の広い学問領域です。法医学は死因究明だけでなく、生体診察も行うことがあるということもぜひ知っていただきたいと思います。



環境健康科学講座

平崎 能郎 准教授

和漢診療学
Department of Japanese-Oriental (Kampo) Medicine

研究テーマ
東西医学を融合した医療を推進するため、漢方薬及びその成分の作用機序の研究（主に抗癌作用、抗ウィルス作用、免疫賦活作用）、および漢方医学診断の客観化に関する研究。

教育 和漢診療の基本概念（陰陽虚実、六病位、気血水）や基本処方の使用目標の習得。適応症や、副作用を学習して、西洋医学にどう取り入れて行くかを教育する。

メッセージ 日本や中国で経験的に行われてきた漢方医学の長所を現在西洋医学に取り入れた医療を目指します。



環境健康科学講座

伊藤 彰一 教授

医学教育学
Medical Education

研究テーマ
教育方法の開発（専門職連携教育 ;IPE など）、学習者支援（コーチング、メンタリングなど）、学習者評価、教育評価（教育 IR）など、医学教育全般の研究を行っています。

教育 卒前の医学教育全般、特に導入教育、専門職連携教育（IPE）、倫理教育、コミュニケーション教育、医学英語教育、臨床教育、臨床実習前・後 OSCE を主導しています。

メッセージ 卒業生の能力の質を保証するため、効果的・効率的な医学教育の実現に努めます。個々人の多様性を尊重し、診療、研究、教育等の分野での優れた人材育成を目指します。



先端がん治療学研究講座

池原 譲 教授

腫瘍病理学
Department of Molecular and Tumor Pathology

研究テーマ
疾患モデルの作成と解析による「がんの発生と進展メカニズム」の解明・病理と理工学の融合による「プラズマ技術や超 1000nm 近赤外波長域イメージング技術」の実用化研究。

教育 病理学総論、病理学各論、臨床医科学特論。

メッセージ 腫瘍病理学講座のミッションは、知識と経験から新たな知や技術を創成することです。新たな疾患理解や診療技術の創成にチャレンジしてみませんか？



先端がん治療学研究講座

本橋 新一郎 教授

免疫細胞医学
Department of Medical Immunology

研究テーマ
抗腫瘍効果をもつ免疫細胞を利用したがん治療の開発研究を行う。治療用免疫細胞の詳細な作用機序およびがんの免疫抑制作用を解明し、有効で安全な新規治療法を開発する。

教育 腫瘍免疫に関わる免疫システムを理解し、有効で安全な免疫治療を開発するために必要な教育を行う。

メッセージ 難治性疾患である固形がんや血液がんを対象として、自己および他家の免疫細胞製剤を用いて安全で副作用の少ない新規治療法の開発研究を行っています。



先端がん治療学研究講座

関 直彦 准教授

機能ゲノム学
Department of Functional Genomics

研究テーマ
癌細胞における機能性 RNA 分子ネットワークの探索。マイクロ RNA 発現プロファイルに基づく「癌転移抑制型マイクロ RNA」の探索。

教育 癌細胞の転移抑制型マイクロ RNA の探索と、マイクロ RNA が制御する新規分子ネットワークについて、大学院の研究・教育を行っています。

メッセージ 機能性 RNA の 1 種であるマイクロ RNA に着目して、癌・ゲノム研究を進めています。特に、癌細胞 の転移に関わるマイクロ RNA の研究をしています。



先端がん治療学研究講座

鵜澤 一弘 教授

口腔科学
Department of Oral Science

研究テーマ
口腔疾患全般の病態解明とその画期的治療戦略の開発にむけて、臨床医の立場からみた基礎研究を行っています。口腔科学研究の念願である歯・唾液腺再生にも挑戦しています。

教育 医学部生には歯科特有の疾患や咬合理論を紹介し、口腔に造詣の深い医師の育成にあたっています。口腔癌や再生医療の最新研究に触れさせながら大学院教育を進めています。

メッセージ 全身健康に貢献する口腔健康を推進するため教室員個々の多様性を活かした研究チームによる新規治療法の発見に努めています。志ある全国歯学部生の仲間を歓迎いたします。



先端がん治療学研究講座

花澤 豊行 教授

耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学
Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery

研究テーマ
耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学全般、特に頭頸部癌に対する免疫細胞治療の開発、ならびに遺伝子発現解析、アレルギー性鼻炎の病態研究・免疫療法含む新規治療開発、喉頭生理研究

教育 学部学生にはユニット講義、頭頸部・側頭骨の肉眼解剖実習への参加指導、マンツーマンでの病院実習、大学院生は免疫、アレルギー、エピゲノム、がん遺伝子をテーマに研究

メッセージ 教室員の可能性を引き出すことをモットーに 、頭頸部腫瘍の治療や、免疫細胞療法及びアレルギー性鼻炎の新規治療開発など臨床を見据えた研究に全員で取り組んでいます。



先端がん治療学研究講座

宇野 隆 教授

画像診断・放射線腫瘍学
Department of Diagnostic Radiology and Radiation Oncology

研究テーマ
新しい画像診断・IVR 技術の開発と機能画像による病態解明、MR 画像診断と AI 技術の応用による高精度・低侵襲がん放射線治療技術の開発および臨床評価と予後予測に関する研究。

教育 画像診断、IVR、核医学、放射線腫瘍学、医学物理、放射線生物学に関して基礎研究から臨床応 用まで幅広く学習（博士課程）

メッセージ 画像診断・放射線治療学の発展を先導し、社会や地域に貢献できる臨床医・研究医を育成すべく、専門医集団が高度で専門的な最先端の放射線医学を幅広く指導しています。



先端がん治療学研究講座

大野 泉 講師

臨床腫瘍学
Department of Medical Oncology

研究テーマ
臓器横断的ながん薬物療法、特に多モダリティー併用療法の作用機序や耐性機序、及びがんゲノム医療などに関する基礎研究・橋渡し研究を行い、臨床試験を行う。

教育 附属病院「腫瘍内科」のカウンターパートとして、卒前においては臓器横断的腫瘍内科学の教育・実習、卒後においては臨床試験の立案・計画・実行ができる専門教育を行う。

メッセージ 腫瘍内科学を教育・研究・実践する研究室です。腫瘍内科学は日本では歴史も浅く、講座を持つ大学は全国でも多くありません。新しい分野を拓くパイオニアを目指しましょう。



高次機能治療学研究講座

三木 隆司 教授

代謝生理学
Department of Medical Physiology

研究テーマ
糖とエネルギー代謝の制御機構の研究を行っている。特に、膵β細胞やインスリン標的臓器の機能、臓器間代謝ネットワーク制御、腎臓の恒常性維持機構を解析している。

教育 学部教育では生理学の講義を担当している。大学院教育では上記の研究テーマに沿って、糖・代謝疾患の病態機能解析および革新的な治療法の開発を目指している。

メッセージ 興味と情熱を持って、科学の探求に取り組むことが出来る若者の参画をお待ちしています。



高次機能治療学研究講座

入鹿山 容子 講師

疾患生命医学
Department of Biomedical Science

研究テーマ
ストレス応答性細胞内シグナルの病態生理的役割や、睡眠関連物質が炎症および呼吸制御に果たす役割を基盤に、炎症性疾患の発症機構解明と新規治療法の探索に取り組んでいる。

教育 学生には自由に挑戦する場を提供する一方で、必要なときには適切なフィードバックや指導を与えることで、研究に対するモチベーションを高めることができるように心がけている。

メッセージ 基礎研究は医療の未来を拓く鍵です。新たな治療法の発見は、細胞や分子の理解から始まります。医学生がその一端を担うことは、患者の未来を支える一歩になると考えています。



高次機能治療学研究講座

齋藤 哲一郎 教授

発生再生医学
Department of Developmental Biology

研究テーマ
神経系を構築する分子機構の解明。特に、神経ネットワークを制御する分子の機能解析と神経幹細胞の若返りを目指した研究。

教育 学部で遺伝分子医学とイノベイティブ先端治療学、基礎医学ゼミ、スカラーシッププログラム、大学院で先端生命科学特論、卓越教養特論、CITIP 特論、発生再生医学特論など。

メッセージ「基礎を究めて、より大きな展開」を目標に研究しています。



高次機能治療学研究講座

中島 裕史 教授

アレルギー・臨床免疫学
Department of Allergy and Clinical Immunology

研究テーマ
気管支喘息の病態解明と新規治療戦略の開発、関節リウマチ治療の最適化、膠原病の病態解明、T 細胞の分化制御機構・サイトカイン産生機構に関する基礎研究を行っています。

教育 学部教育（アレ膠ユニット）から卒後臨床研修まで一貫してアレルギー・膠原病領域において世界に通用する Physician Scientistの育成を目標に教育（洗脳?）を行っています。

メッセージ「世界に誇る千葉大の免疫学を臨床の場へ」をスローガンにアレルギー疾患と自己免疫疾患を対象にした基礎と臨床を統融合した独創的な研究と、最先端の診療を行っています。



高次機能治療学研究講座

木村 元子 教授

実験免疫学
Department of Experimental Immunology

研究テーマ
T リンパ球の発生・分化機構の解明、機能と疾病との関連に着目した基礎免疫学研究を行う。基礎研究の成果を基にした難治性疾患・癌治療への応用にも力を入れている。

教育 日々のディスカッションに重点を置くことで免疫システムの理解を深め、研究に必要な知識や技術の習得、理論構築ができるよう教育する。

メッセージ 生命の神秘を司る未知の生命機構の解明に挑戦したいという情熱あふれる仲間を歓迎します。



高次機能治療学研究講座

平原 潔 教授

免疫発生学
Department of Immunology

研究テーマ
免疫記憶の基礎研究、慢性炎症に伴った難治性病態（組織線維化、病的掻痒など）の研究、新型コロナウイルス感染症などの感染免疫の研究。

教育 学部：免疫学、基礎医学ゼミ、スカラーシッププログラム
大学院：治療学演習、生体防御医学特論、臨床アレルギー学特論

メッセージ 組織線維化などの「免疫系」が深く関与する様々な難治性病態の基礎・臨床研究を通じ、治療を目指した「治療学」の研究を推進しています。意欲溢れる若手の参加を望みます。



高次機能治療学研究講座

金田 篤志 教授

分子腫瘍学
Department of Molecular Oncology

研究テーマ
癌はゲノムの塩基配列異常だけでなく、エピゲノム修飾や3次元クロマチン構造の異常が複雑に重なり発症します。これらオミクス情報を網羅的に解明し発癌の本態に迫ります。

教育 学部では基礎医学の第一歩として生化学（代謝栄養生化学）を教育します。大学院では若手オミクス研究人材を指導育成し、また講義・演習で癌エピゲノムを教育します。

メッセージ 感染、炎症など様々な環境因子により細胞のエピゲノムや運命は変化します。その結果起こる発癌やリスク上昇の機構解明、その臨床応用基盤に興味ある方の訪問を歓迎します。



高次機能治療学研究講座

古関 明彦 教授

細胞分子医学
Department of Cellular and Molecular Medicine

研究テーマ
細胞の分化や形態形成過程におこるエピジェネティクス制御の作用メカニズムの研究、ヒト iPS 細胞から誘導した免疫細胞を用いたがん治療法の開発、炎症発症メカニズムの研究。

教育 発生遺伝学、幹細胞生物学、疾患遺伝学などをデータ科学として展開し、疾患モデルや患者などからの多階層データのデータ統合に取り組む人材の育成を目指す。

メッセージ 千葉大学と理化学研究所生命医科学研究センターにある研究資源や人材を活用しながら、教育と研究を行います。挑戦と努力の先にだけ時々未来は開けてくると思っています。



高次機能治療学研究講座

長谷川 孝徳 講師

動物病態学
Department of Comparative Pathology

研究テーマ
動物実験を主体とした研究基盤としての動物実験環境の整備（微生物学的統御など）、実験動物の飼育管理業務の改善。

教育 教育訓練等の実施により、研究者の法令遵守及び安全を確保し、本学における動物実験が適正に実施されることを目的としています。併せて動物の取り扱い技術の向上、使用動物数の削減にも取り組んでいます。

メッセージ 動物実験における実験動物に対する福祉の考え方が強くなっています。千葉大学の動物実験も3R 5F 対応した方向に進んでいます。実験動物をクリーンな環境下で飼養できる施設運営を目指し飼育環境整備や動物福祉を尊重するように心がけています。



高次機能治療学研究講座

小野 啓 准教授

内分泌代謝・血液・老年内科学
Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology

研究テーマ
糖尿病・脂質異常症・肥満症と合併症の分子機序、白血病・GVHD の分子機序と関連遺伝子解析、内分泌疾患の原因遺伝子の探索、早老症と老化など。

教育 内科学を基盤に代謝内分泌学・血液病学・老年医学を学び、卒後臨床研修や大学院の研究を通じて、臓器横断的にグローバルな視野で次世代の医療に貢献する physician scientist を育成します。

メッセージ アカデミックな考え方に基づき、高い専門性を持って全身を診る内科医を目指します。質の高い基礎 / 臨床研究により病態・機序を解明し、疾患と合併症の制圧につながる新たな診断・治療法の開発に取り組んでいます。



高次機能治療学研究講座

濱田 洋通 教授

小児病態学
Department of Pediatrics

研究テーマ
川崎病の治療開発。コホート研究やフィールドワークによるアレルギー疾患予防・発達の研究。腸管免疫を介した疾病予防。脳画像による発達研究。小児がん・内分泌基礎研究。

教育 診療から今の小児医療の課題を見いだし、そのクリニカルクエスチョンに取り組む研究をしています。臨床課題に立ち向かい、克服する力を育成します。

メッセージ 我々は子どもの味方です。目の前の子どもに多領域の専門家が集まり総合的医療を提供しています。新しい治療や予防の開発に取り組み、小児の難治性疾患に挑戦しています。



イノベーション治療学研究講座

倉島 洋介 准教授

イノベーション医学
Department of Innovative Medicine

研究テーマ
食物や細菌などの異物が常時存在する腸管粘膜の組織恒常性の破綻がアレルギーや炎症のトリガーになります。私たちは粘膜疾患の革新的な治療法の確立を目指しています。

教育 疾患モデルの開発、免疫機能解析、腸内細菌解析を基盤として、各々の研究者（学生）が新しい解析技術の確立とその応用を目指します。個性を尊重した研究活動を推進します。

メッセージ 研究は、第一発見者は自分です。そこにたどり着くまでには多くの失敗が伴うこともありますが、後世の社会に役立つことを夢見て険しい道でも気概を持って共に歩みましょう。



イノベーション治療学研究講座

髙山 直也 准教授

イノベーション再生医学
Department of Regenerative Medicine

研究テーマ
独自に開発した様々な細胞の若返り技術を通じて、血液・血管系、骨・軟骨系の難治性疾患に対する再生医療への応用、病態解明、新規研究用デバイス開発を目指します。

教育 科学者の究極のエゴは、自己の知りたいと願う欲求を満たすことにあると思います。それを大切に、病気の本態を考えて診断法や治療法を提案できる人を育てたいと思います。

メッセージ 臨床への応用を念頭に、ヒト細胞を用いた再生、病態解明に取り組んでおります。イノベーション（技術革新）をやり遂げたいと少しでも考える人はいつでもご連絡下さい。



イノベーション治療学研究講座



イノベーション治療学研究講座

眞鍋 一郎 教授

疾患システム医学
Department of Systems Medicine

研究テーマ
生活習慣病やがんの分子機構、恒常性維持とストレス応答の研究。特に急増している心不全や多疾患罹患状態について、臓器間連携や老化の観点から研究を行っています。

教育 疾患メカニズムの理解とテクノロジーの進歩によって急速に変革が進んでいる臨床医学と関連づけながら、新しい生物学を切り拓く人を育てたいと思っています。

メッセージ 常に新しいアイデアで医学、生物学の難問にとり組み、アンメットニーズを解消する研究を行いたいと考えています。興味のある方はいつでもご連絡下さい。

川上 英良 教授

人工知能（AI）医学
Department of Artificial Intelligence Medicine

研究テーマ
機械学習・数理科学に基づく疾患の層別化と予測アルゴリズム開発を通じて個別化・予測医療の実現を目指します。新しいオミクス解析手法開発も進めていきます。

教育 AI・数理科学と医学・生物学の両方を理解し活用できる人材の育成を行います。様々な分野の学生・研究者・医師が交流するイノベーションの場を作っていきたいと思います。

メッセージ 近年、AI 技術の普及により医学・生物学が大きく変わろうとしています。新しい医学のパラダイムを、研究室員および臨床・基礎の先生方と一緒に作っていきたいと思います。

医学薬学府
研究院等関連図
Relationship Map

大学院医学薬学府及び医学研究院・薬学研究院並びに医学部・薬学部の関連図

医学薬学府（大学院教育組織）

- 修士課程（医学領域）
  医科学専攻
- 修士課程（薬学領域）
  総合薬品科学専攻
- 4年博士課程（医学領域・薬学領域）
  先端医学薬学専攻
- 4年博士課程（医学領域）
  先進予防医学共同専攻
- 後期3年博士課程（薬学領域）
  先端創薬科学専攻
- 附属施設
  薬用資源教育研究センター

医学研究院（大学院研究組織）

- 中核研究部門
  脳・神経治療学研究講座
  呼吸・循環治療学研究講座
  消化器治療学研究講座
  生命機能治療学研究講座
  環境健康科学講座
- 先端研究部門
  先端がん治療学研究講座
  高次機能治療学研究講座
  未来医療グローバル治療学研究講座
  イノベーション治療学研究講座
- 総合医科学講座
- 連携講座
  精神神経科学連携講座
  医療行政学連携講座
  分子腫瘍生物学連携講座
  放射線防御機能学連携講座
  免疫制御学連携講座
  ゲノム医科学連携講座
  医療機器国際基準認証学連携講座
  国際粘膜免疫・病態制御学連携講座
  産学連携治療学連携講座
  病理解析工学連携講座
  マクロ病理診断学連携講座
  統合微生物学連携講座
- 寄附講座
  不整脈先端治療学寄附講座
  先端脊椎関節機能再建医学寄附講座
  次世代型健康長寿ホルモンアカデミー寄附講座
  運動器科学革新医療創成寄附講座
  分子病態治療学寄附講座
  MR 画像誘導即時適応放射線治療学寄附講座
  先端再生形成外科学寄附講座
  地域消化器内科人材育成・調査研究寄附講座
  千葉県寄附講座 地域医療教育学講座
  不整脈先進医工学寄附講座
- 共同研究講座
  次世代予防医療創生講座
- 附属施設
  クリニカル・スキルズ・センター
  法医学教育研究センター
  超高齢社会研究センター
  国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター
  治療学人工知能（AI）研究センター
  動物実験施設

医学部（学部教育組織）

- 医学科

薬学研究院（大学院研究組織）

- 創成薬学研究部門
  創薬科学講座
- 生命薬学研究部門
  ゲノム創薬学講座
  環境生体科学講座
- 臨床薬学研究部門
  分子薬物治療学講座
  先端実践薬学講座

薬学部（学部教育組織）

- 薬学科
- 薬科学科

病院組織機構図

Hospital Organization Chart

- 病院長
  - 有識者懇談会
  - 執行部会
    - 経営戦略会議
    - コミュニケーション戦略会議
    - 情報セキュリティ対策会議
  - 運営会議
  - 副病院長
  - 病院長補佐
  - 病院長企画室
  - 病院法務室
  - 臨床研究推進本部
  - 病院広報室
  - 臨床研究監査室
  - 働き方改革推進本部
  - 診療科
    - 消化器内科
    - 血液内科
    - 腎臓内科
    - アレルギー・膠原病内科
    - 糖尿病・代謝・内分泌内科
    - 循環器内科
    - 呼吸器内科
    - 和漢診療科
    - 感染症内科
    - 腫瘍内科
    - 心臓血管外科
    - 食道・胃腸外科
    - 肝胆膵外科
    - 乳腺外科
    - 呼吸器外科
    - 麻酔・疼痛・緩和医療科
    - 泌尿器科
    - 救急科
    - 整形外科
    - 眼科
    - 皮膚科
    - 耳鼻咽喉・頭頸部外科
    - 歯科・顎・口腔外科
    - 形成・美容外科
    - リハビリテーション科
    - 精神神経科
    - 脳神経外科
    - 脳神経内科
    - 婦人科
    - 産科
    - 小児科
    - 小児外科
    - 放射線科
    - 病理診断科
    - 総合診療科
  - 中央診療施設等
    - 検査部
    - 手術部
    - 放射線部
    - 材料部
    - 人工腎臓部
    - 集中治療部
    - 輸血・細胞療法部
    - 冠動脈疾患治療部
    - 病理部
    - 内視鏡センター
    - リハビリテーション部
    - こどものこころ診療部
    - 臨床工学センター
    - 臨床腫瘍部
    - 遺伝子診療部
    - 認知症疾患医療センター
    - アレルギーセンター
    - 周術期管理センター
    - 高齢者医療センター
    - 糖尿病コンプリケーションセンター
    - 緩和ケアセンター
    - 包括的脳卒中センター
    - 周産母子センター
    - 肺高血圧症センター
    - 認知行動療法センター
    - ブレストセンター
    - 造血細胞移植センター
    - 画像診断センター
    - スポーツメディクスセンター
    - ハートセンター
    - 痛みセンター
    - 超音波センター
    - コロナワクチンセンター
    - クオリティ・マネジメント・センター
    - リプロダクション支援センター
  - 企画情報部
  - 医療安全管理部
  - 感染制御部
  - 臨床試験部
  - 患者支援部
  - 臨床栄養部
  - 総合医療教育研修センター
  - 東金九十九里地域臨床教育センター（東千葉メディカルセンター内）
  - 未来開拓センター
  - 国際医療センター
  - がんゲノムセンター
  - メドテック・リンクセンター
  - 東洋医学センター
  - 成田赤十字病院肺がん治療センター
  - 病院経営管理学研究センター
  - 浦安リハビリテーション教育センター
  - スタッフケアセンター
  - 移行期医療支援センター
  - 医師キャリア支援センター
  - 千葉県肝疾患相談センター
  - 千葉県がん・生殖医療相談支援センター
  - 未来粘膜ワクチン研究開発センター
  - 薬剤部
  - 看護部
  - 事務部
  - 共同研究部門 次世代医療構想センター

附属施設紹介

Introduction of Facilities

クリニカル・スキルズ・センター（CCSC）

日本最大規模の研修施設

全ての医療専門職者を対象に初歩から高度まで様々な医療技術を実際に経験して学習することができ、それにより医療の安全性と患者満足度を高め、患者中心の医療を実現することを目的とした施設です。実際の診療と比べ、シミュレーションではシナリオを工夫したり、難しい技術をパーツに分けるなどすることで学習者のレベルに合わせた難易度に設定して練習したり、滅多に起こらないような状況を再現して繰り返し練習することもできることから、着実なスキルアップを図ることができます。

CCSCはシミュレータを利用して教育・研修を行うシミュレーション・ラボ、模擬患者（Simulated Patient, SP）が参加して教育・研修を行うパフォーマンス・ラボ、献体によるご遺体を利用して教育・研修を行うアナトミー・ラボと動物を使用して教育・研修を行うアニマル・ラボで構成されています。







法医学教育研究センター　日本を代表する法医学専門家の養成拠点

法医学教育研究センターは、法医学領域において高度に専門化した実務を行う医師、歯科医師、薬剤師、検査技師等を養成することを目的とし平成26年度に設置されました。

法医学は解剖を実施するだけの学問領域ではありません。死因を究明するためには、解剖の他に、薬物検査、画像検査、血液及び尿の生化学的検査、DNA検査や歯科所見の採取といった検査が必要になります。これら検査を実施するためには独特な経験や熟練を要し、生体試料に対する検査とは異なる精度管理が必要とされますが、日本においてはそうした人材を育成する環境が乏しい状況にあります。また、多くの国では法医学はご遺体のみを対象としているのではなく、虐待を受けた子ども、傷害事件やDVの被害者等の生きた方を診察し、客観的証拠を保全したり、最悪な状態となる前に保護を薦める仕事も担っておりますが、日本においては一部の大学を除きそのような体制は整っておりません。本センターは、そうした状況から脱却すべく、法医学を6つの専門領域に分け、それぞれにおいて実務者、教育者、研究者としてのキャリアパスを形成することで、専門家を継続的に養成し日本の法医学領域のレベルアップをはかるべく設置されました。

法医診断学基幹６部門

各部門、教授１名、准教授1名、大学院生

法医学診断学基幹６部門の設置とそれによる教育，連携の強化（臨床法医学の創設等により法医学への関心を高める）法医学者としてのキャリアパスモデルの形成，学内での各科連携，学外諸機関との連携。

法病理学	法中毒学	法遺伝学	法歯科学	法医画像診断学	臨床法医学（新規分野の創設）
教育	教育	教育	教育	教育	教育
解剖実務・組織診断学教育 法医学医師・法医技術専門員養成	法医中毒学教育 薬毒物分析者養成	遺伝子学教育 遺伝子研究者養成	法歯科学教育 法歯科医学者養成	法医画像診断学教育 法医画像診断医養成 死後CT/MRIによる死因究明および法人類学的検討	法医生体診察教育（暴行・傷害・虐待） 法医学医師養成
研究	研究	研究	研究	研究	研究
糸球体硬化度を用いた年齢推定方法に関する研究 各種体液分析による溺死の診断方法に関する研究 骨の計測による性別および身長推定方法の探求	薬物血中濃度に代わる薬毒物中毒マーカーに関する研究 死後薬物再分布に関する研究 骨・歯からの薬物検出法に関する研究	DNA型検査による個人識別方法の探求 ヒト寄生生物DNAを用いた出身地推定方法の開発 疾患遺伝子の法医診断への応用	歯牙含有アミノ酸分析による年齢推定方法の開発 放射性炭素を用いた出生年推定の研究 歯牙による個人識別方法の探求	死後造影検査法の確立 内視鏡を用いた死後血管内検索法の開発 被虐待児の画像診断	多機関連携による子供虐待防止に関する研究 統一的な傷害の重症度判定方法の探索

国民生活の安心・安全に資する多岐分野にわたる専門領域横断型法医学者

国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター

カリフォルニア大学サンディエゴ校との共同研究センター設置

千葉大学は、新しい学術領域である「粘膜免疫・アレルギー治療学」を創成し、そこから得られる理論・技術を感染症・がん・アレルギー等の次世代型粘膜ワクチンの開発に結びつける試みに取り組んでいます。この「病気にかからない予防ワクチン（次世代型粘膜ワクチン）」の開発と、本領域の次世代を担うグローバルな研究者の育成の拠点として、世界屈指の粘膜免疫の研究者を有し、ノーベル賞受賞者を多数輩出するカリフォルニア大学サンディエゴ校と共同で、研究センターを平成28年4月に双方の大学内に設置しました。

本研究センターを中心に最先端の免疫疾患・感染症の新規予防・治療開発を推進し、世界規模での健康増進、生活の質の向上、医療費の削減を目指しています。



千葉大学の４研究室が設置されたUCSDのバイオメディカルリサーチビルディング

超高齢社会研究センター　健康長寿社会の実現を目指して

我が国は平成19年に高齢化率が21%を超え、超高齢社会に突入しました。その中でも屈指のスピードで高齢化が進展している本県は、日本のみならず世界の健康長寿社会のモデルになり得る可能性を秘めています。

医学研究院では、「先進加齢医学寄附講座」、「認知症疾患医療センター」、「千葉県寄附研究部門 高齢社会医療政策研究部」が設置されるなど、以前から超高齢社会の諸問題に対し組織的対応を続けてきました。それらの活動をさらに発展させることを目的に、平成26年4月1日に大学院医学研究院超高齢社会研究センターが設立されました。

超高齢社会研究センターは、医学的アプローチを推進する「超高齢社会臨床部門」、社会科学的・自然科学的アプローチを推進する「超高齢社会疫学部門」の2つの部門から構成され、総合的に超高齢社会への対策を進めています。また、総合大学である本学の長所を生かし、各学部の高齢社会関連の研究室を始め、県内の自治体、関連職能団体、地元企業、地域社会と協働し、医療・介護の質向上と安心して暮らせる健康長寿社会の実現を目指します。

超高齢社会研究センター

総合治療　老年内科（老年専門医）　医療政策研究　神経内科（認知症専門医）

臨床部門

包括的高齢者医療　在宅医療
エンドオブライフ医学

医学的アプローチ

超高齢社会に対応するQOLと臓器横断的視点を重視した高齢者医療の開発・実践と教育を推進する。

- 医学部附属病院各専門診療科
- 臨床試験部製薬会社（臨床研究中核病院）
- 地域医療連携部総合医学教育センター（未来医療人材養成拠点）

新薬開発 治療法開発　高齢者の 疾患予防と治療　在宅医療の 実践と教育

疫学部門

医療・介護需要予測
地域疾患管理
社会システム再構築

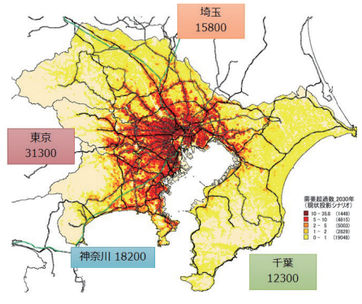
社会科学的・自然科学的アプローチ

超高齢社会を考える総合的シンクタンクとして，医療政策に関する研究に加え，人材育成，啓発活動にも注力する。

高齢化対策のハブ拠点化

千葉大学他学部	高齢化関連研究室
千葉県	民間団体
地域社会	関連職能団体
地方自治体	地元企業NPO





高齢者医療の全ステージに“面”で対応できるシステム構築と人材の育成

▼

医療・介護の質向上と安心して暮らせる健康長寿社会の実現

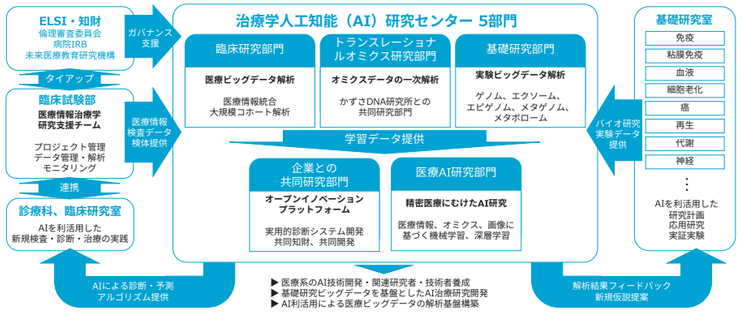
治療学人工知能（AI）研究センター　「AI治療学」の創生

ビッグデータ、人工知能（AI）の医療分野への応用は、政府の成長戦略等で喫緊の課題となっており、均質・高精度・膨大な処理能力持つAIの臨床医学研究、基礎医学研究への導入も必然となっている中、医学研究院では、平成30年4月に治療学人工知能（AI）研究センターを設立しました。

当センターは、①臨床研究部門、②トランスレーショナルオミックス研究部門、③基礎研究部門、④医療AI研究部門、⑤企業との共同研究部門の5部門で構成され、生命倫理審査委員会及び病院IRB(institutional review board:治験審査委員会)と連携したELSI(Ethical Legal Social Issues)への十分な配慮、改正個人情報保護法に対応したAI拠点形成を目指しています。

本センターでは、本学の強みである免疫学、分子生物学、ゲノム医科学を始めとする基礎医学研究において取得された実験ビッグデータと、附属病院を中心として培ってきた診断、治療に関する医療ビッグデータをリソースとして、医学・生物学と共に進化する人工知能(AI)を開発します。また、基礎研究室と連携した仮説実証と再学習、及び臨床現場における実地利用を推進し、新学術領域である「AI治療学」を創生します。革新的な基礎研究の実施、精度の高い速やかな診断法の確立、全く新しい治療法の開発と創薬開発を行う医療研究拠点を形成すると共に、当該研究領域において次世代を担う研究者、医療者、技術者の育成を目指します。

https://www.caist.m.chiba-u.jp







役職員一覧

（令和6年10月1日現在）

役職名	氏名	現任期
大学院医学研究院長・医学部長	三木 隆司	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院総括副研究院長・総括副学部長	古関 明彦	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（研究担当）	齋藤哲一郎	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（研究担当）	眞鍋 一郎	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（研究担当）	中島 裕史	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（総務担当）	本橋新一郎	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（産学連携担当）	田中 知明	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（広報担当）	菱木 知郎	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（教育担当）	清水 栄司	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（運営担当）	淺沼 克彦	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（運営担当）	大鳥 精司	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院副研究院長（情報担当）	山口　淳	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
医学部副学部長（教育担当）	伊藤 彰一	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
医学部副学部長（教育担当）	諏訪園　靖	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
医学部附属病院長	大鳥 精司	R6. 4. 1 ~ R9. 3.31
大学院医学薬学府長	伊藤 素行	R6. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学薬学府副学府長	清水 栄司	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
教育研究評議会評議員	本橋新一郎	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
教育研究評議会評議員(病院選出)	小林 欣夫	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
副学長（研究担当）	齋藤哲一郎	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
副学長（研究・地域中核担当）	中島 裕史	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
副学長（病院担当）	大鳥 精司	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
経営協議会委員	三木 隆司	R5. 4. 1 ~ R8. 3.31
経営協議会委員	大鳥 精司	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
大学院医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センター長	伊藤 彰一	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
大学院医学研究院附属法医学教育研究センター長	岩瀬博太郎	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
大学院医学研究院附属超高齢社会研究センター長	眞鍋 一郎	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学研究院附属国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター長	中島 裕史	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
大学院医学研究院附属治療学人工知能(AI)研究センター長	川上 英良	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
大学院医学研究院附属動物実験施設長	古関 明彦	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
大学院医学薬学府附属薬用資源教育研究センター長	山崎 真巳	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
医学部医学教育研究室長	伊藤 彰一	H31. 4. 1 ~
附属図書館亥鼻分館長	安西 尚彦	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
バイオメディカル研究センター長	古関 明彦	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
社会精神保健教育研究センター長	三木 隆司	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
予防医学センター長	櫻井 健一	R6. 4. 1 ~ R8. 3.31
未来医療教育研究センター長	花岡 英紀	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
健康疾患オミクスセンター長	金田 篤志	R5. 10. 1 ~ R7. 3.31
ヒト免疫疾患治療研究・開発センター長	本橋新一郎	R6. 10. 1 ~ R8. 3.31
子どものこころの発達教育研究センター長	清水 栄司	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
災害治療学研究所長	田中 知明	R5. 4. 1 ~ R7. 3.31
未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点長	清野　宏	R4. 10. 1 ~
未来医療教育研究機構長	横手幸太郎	R6. 4. 1 ~

配置職員数

大学院医学研究院

（令和6年5月1日現在）

区分	教員					合計
	教授	准教授	講師	助教	助手	
配置職員数	44	34	31	48	0	157

医学部

（令和6年5月1日現在）

区分	技術専門職員/技術職員
配置職員数	19

亥鼻地区事務部

（令和6年5月1日現在）

区分	その他職員					合計
	事務部長	課長	副課長・専門員	係長・専門職員	主任・係員	
配置職員数	1	4	15	16	35	71

亥鼻地区事務部：総務課、管理企画課、研究推進課及び学務課で構成され、亥鼻地区の部局等の事務に関する業務を行う。

医学部学生定員・現員及び入学状況

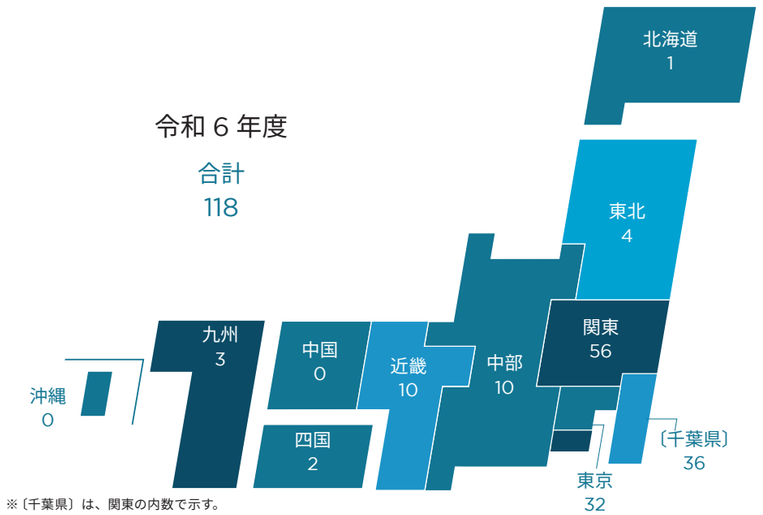
学生定員・現員

区　分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
定　員	117	117	117	117	117	117	702
現　員	127 [0]	122 [0]	112 [0]	124 [0]	113 [0]	127 [0]	725 [0]

※＜　＞は3年次編入定員を外数で示す。［　］内は、私費外国人留学生を内数で示す。

入学状況

区　分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
志願者数	前期	329	363	375	328	346	397
	後期	360	373	433	401	406	371
	私費外国人	1	4	2	0	0	0
入学者数	前期	102	97	96	105	105	103
	後期	20	20	22	16	14	15
	私費外国人	0	0	0	0	0	0



※〔千葉県〕は、関東の内数で示す。

卒業生数及び卒業後の進路

学部卒業生

学部名＼年度	明21～平30年度の計	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
前身学校	11						11
第一高等中学校	667						667
千葉医学専門学校	2,520						2,520
千葉医科大学	2,172						2,172
臨時医学専門部	752						752
医学部	6,619	124	129	117	120	108	7,217
合計	12,741	12,865	12,994	13,111	13,231	13,339	13,339

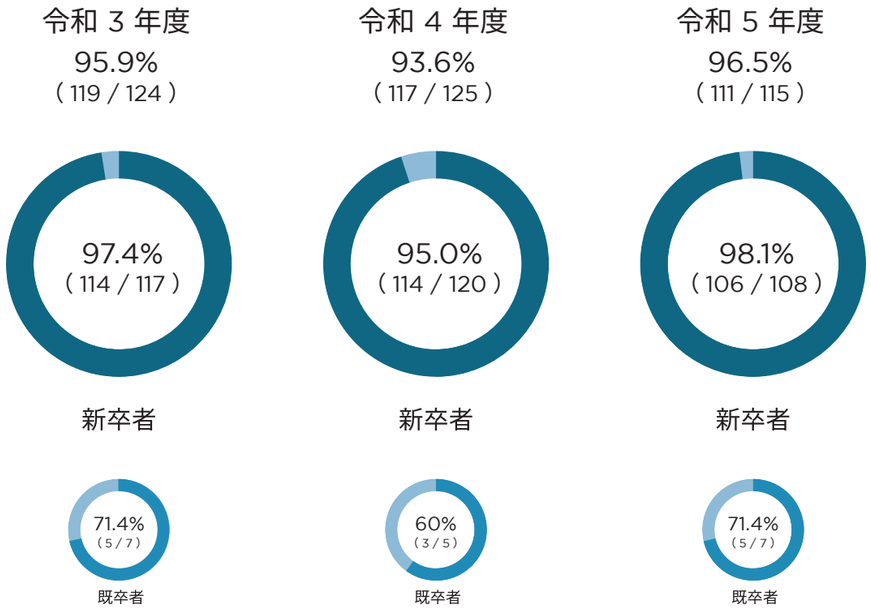
学部卒業生の進路

卒業年度＼区分	卒業者数	臨床研修医			その他	備考
		千葉大学	他大学	その他の病院		
令和３年	117	1 10	5 7	96 85	3 3	不明(1年目)12 不明(2年目)12
令和４年	120	4 14	8 9	100 87	8 10	
令和５年	108	2 9	4 4	100 93	2 2	

※上段は1年目を、下段は2年目を示す。

(令和6年3月31日現在)

医師国家試験受験状況及び合格率



※( ) 内は、受験者数及び合格者数を示す。

(令和6年3月31日現在)

大学院４年博士課程専攻及び入学状況

専攻

専攻	入学定員	現員 1年	現員 2年	現員 3年	現員 4年	現員 計
先端医学薬学専攻	148※	139 (12)	153 (12)	111 (7)	106 (7)	509 (38)
先進予防医学共同専攻	10	9 (0)	8 (0)	8 (3)	15 (0)	40 (3)

( ) 内は外国人留学生を内数で示す。
※令和5年度より入学定員は148名に増員された。

入学状況

専攻	募集人員	令和元年度 志願者	令和元年度 入学者	令和２年度 志願者	令和２年度 入学者	令和３年度 志願者	令和３年度 入学者	令和４年度 志願者	令和４年度 入学者	令和５年度 志願者	令和５年度 入学者	令和６年度 志願者	令和６年度 入学者
先端医学薬学専攻	148※	117 [9]	108 [8]	136 [16]	109 [12]	126 [8]	110 [6]	178 [16]	118 [8]	192 [16]	161 [12]	147 [15]	138 [11]
先進予防医学共同専攻	10	14 [2]	11 [1]	13 [0]	10 [0]	10 [0]	10 [0]	8 [3]	8 [3]	9 [0]	8 [0]	9 [1]	9 [1]

※4月入学及び10月入学の合計数。募集人員は薬学領域を含むが、志願者数及び入学者数は医学領域のみ。[ ] 内は、外国人留学生を内数で示す。
※令和5年度より募集人員は148名に増員された。

大学院修士課程専攻及び入学状況

専攻

専攻	入学定員	現員 1年	現員 2年	現員 計
医科学専攻	27	25 [9]	29 [4]	54 [13]

[ ] 内は、外国人留学生を内数で示す。

入学状況

専　攻	募集人員	令和４年度 志願者	令和４年度 入学者	令和５年度 志願者	令和５年度 入学者	令和６年度 志願者	令和６年度 入学者
医科学	27	36 [9]	29 [6]	34 [7]	28 [6]	27 [8]	23 [7]

※4月入学及び10月入学の合計数。[ ] 内は、外国人留学生を内数で示す。

修了生数及び修了後の進路

大学院修了生

研究科名＼年度	明33～平27年度の計	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
医学研究科	1,535	–	–	–	–	–	–	–	–	1,535
医学薬学府4年博士課程	1,329	109	113	111	114	125	120	115	117	2,253
合　　計	2,864	109	113	111	114	125	120	115	117	3,788

大学院（博士）修了生の進路

修了年度＼区分	修了者数	病院医師				研究職	留学	研究生	教員	その他
		千葉大学	他大学	県内病院	県外の病院					
令和元年度	114	34	7	31	11	12	3	0	4	12
令和2年度	116	23	3	44	18	12	0	0	1	15
令和3年度	120	31	4	39	18	9	0	0	2	17
令和4年度	115	36	7	33	8	4	1	1	2	23
令和5年度	117	36	3	34	12	11	2	0	7	12

大学院（修士）修了生の進路

修了年度＼区分	修了者数	研究職	教員	進学	その他
令和元年度	29	4	0	7	18
令和2年度	24	5	1	3	15
令和3年度	22	2	0	12	8
令和4年度	30	1	0	14	15
令和5年度	28	4	0	14	10

学位授与数

年度＼区分	課程修了によるもの	論文提出によるもの	合計
旧制学位			
大正4年度～昭和35年度	ー	2,590	2,590
新制学位			
昭和33年度～平成7年度	819	1,472	2,291
平成8年度～平成24年度	1,681	490	2,171
平成25年度	109	4	113
平成26年度	126	4	130
平成27年度	129	7	136
平成28年度	109	2	111
平成29年度	113	2	115
平成30年度	111	2	113
令和元年度	114	1	115
令和2年度	125	2	127
令和3年度	120	0	120
令和4年度	115	1	116
令和5年度	117	0	117
合　計	3,788	4,577	8,365

経理

収入

（令和6年5月1日現在）
（単位：円）

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考
1. 自己収入及び一般運営費交付金	571,048,434	456,646,707	494,688,226	
2. 補助金収入	315,223,520	295,577,484	245,570,695	科学研究費補助金を除く
3. 産学連携等収入	1,190,905,294	979,038,322	1,054,095,102	受託研究・共同研究・受託事業・共同事業
4. 寄附金収入	661,682,832	587,407,404	790,289,369	
合　　計	2,738,860,080	2,318,669,917	2,584,643,392	

※収入科目は、医学部に関連する４科目を計上。

支出

（令和6年5月1日現在）
（単位：円）

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考
1. 業務費	565,454,738	441,976,136	493,525,030	
2. 補助金経費	315,223,520	295,577,484	245,570,695	科学研究費補助金を除く
3. 産学連携等経費	1,059,104,371	905,472,410	1,006,203,554	受託研究・共同研究・受託事業・共同事業
4. 寄附金経費	632,208,732	709,094,523	599,985,741	
合　　計	2,571,991,361	2,352,120,553	2,345,285,020	

科学研究費補助金獲得状況

科目	令和3年度 件数	令和3年度 金額	令和4年度 件数	令和4年度 金額	令和5年度 件数	令和5年度 金額
特別推進研究	3 (1)	79,630,000	2 (1)	37,310,000	1 (0)	19,350,000
	0	0	0	0	0	0
新学術領域研究（研究領域提案型）	22 (12)	132,925,154	17 (11)	87,384,670	8 (5)	48,640,537
	3	5,500,000	4	8,100,000	2	5,600,000
学術変革領域研究（A）	16 (10)	74,937,000	32 (20)	229,615,548	43 (30)	352,649,785
	0	0	1	13,800,000	1	15,600,000
学術変革領域研究（B）	4 (3)	24,440,000	4 (3)	24,700,000	9 (6)	57,333,375
	2	14,000,000	2	14,000,000	3	23,100,000
基盤研究（S）	12 (1)	55,717,857	16 (4)	121,392,817	14 (3)	89,710,340
	1	22,700,000	1	22,700,000	0	0
基盤研究（A）	73 (16)	167,370,564	58 (13)	146,329,680	47 (15)	172,316,198
	1	12,100,000	1	8,100,000	1	15,500,000
基盤研究（B）	294(128)	613,359,498	317(155)	795,281,552	302(153)	808,459,417
	22	96,480,000	27	121,690,678	23	97,400,000
基盤研究（C）	605(443)	590,352,059	597(431)	525,609,878	563(405)	524,741,232
	93	91,577,318	95	83,652,862	92	80,350,000
挑戦的研究（開拓）	14 (7)	40,311,700	18 (5)	40,714,182	18 (7)	58,253,000
	2	5,100,000	1	2,000,000	1	6,300,000
挑戦的研究（萌芽）	51 (42)	88,881,530	51 (44)	102,256,988	53 (40)	104,116,929
	14	27,100,000	13	24,000,000	8	9,000,000
若手研究（A）	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
若手研究（B）	1 (1)	777,020	0	0	0	0
	1	0	1	0	0	0
若手研究	225(225)	310,117,157	192(192)	272,618,025	177(177)	288,177,167
	41	40,507,507	50	55,999,612	44	52,300,000
国際共同研究加速基金	21 (11)	94,156,958	24 (13)	55,384,218	25 (14)	96,473,000
	8	25,600,000	6	15,000,000	4	17,000,000
研究活動スタート支援	26 (26)	38,473,820	34 (34)	45,978,670	31 (31)	42,120,000
	10	11,300,000	12	13,800,000	8	7,100,000
奨励研究	7 (7)	3,156,238	5 (5)	2,320,000	4 (4)	1,850,000
	1	470,000	0	0	0	0
研究成果公開促進費	3 (3)	1,930,000	5 (5)	7,220,000	5 (5)	3,830,000
	0	0	0	0	0	0
特別研究員奨励費	51 (51)	48,488,512	57 (57)	53,439,888	54 (54)	54,736,166
	0	0	2	1,400,000	2	1,600,000
合　　計	1,428(987)	2,365,025,067	1,429(993)	2,547,556,116	1,354(949)	2,722,757,146
	199	352,434,825	216	384,243,152	189	330,850,000

※上段は大学全体の採択実績数（（）内は研究代表者分の件数）、下段は大学院医学研究院の研究代表者分の採択実績数を示す。　　単位：円

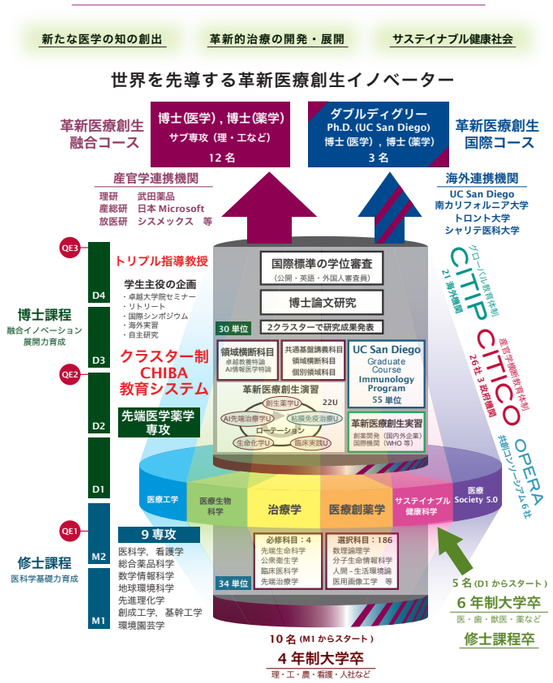


大規模研究プロジェクト紹介

Introduction of Primary Research

卓越大学院プログラム
(WISE Program：Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)

事項	内容
プログラム名称	革新医療創生CHIBA卓越大学院 Innovative Medicine CHIBA Doctoral WISE Program
事業推進担当者	・全体責任者　横手 幸太郎（千葉大学長） ・プログラム責任者　中谷 晴昭（千葉大学理事） ・プログラムコーディネーター　齋藤 哲一郎（千葉大学副学長） ・プログラムサブコーディネーター　本橋 新一郎（大学院医学研究院教授） ・プログラム担当者 清野 宏、森部 久仁一、川上 英良、羽石 秀昭、森 千里、中島 裕史、木村 元子、三木 隆司、平原 潔、金田 篤志、川島 博人、武居 昌宏、松宮 護郎、眞鍋 一郎、鈴木 拓児、加藤 直也、淺沼 克彦、辻 比呂志、田中 知明、石井 伊都子、花澤 豊行、猪爪 隆史、伊藤 素行、伊藤 晃成、根本 哲宏、中村 浩之、笹川 千尋、石川 文彦、劉 浩、兪 文偉、池原 譲、大鳥 精司、山田 滋、榊田 創、村田 武士、小原 收、正木 治恵、諏訪 さゆり、後藤 英司、米山 光俊、石和田 稔彦、後藤 義幸、倉島 洋介、長根（齋藤）裕美、古関 明彦、川瀬 貴之、田中 洋光、関 信男、小見 和也、一川 隆史、河野 剛志、片桐 秀晃、藤沼 賢、的場 亮、味戸 慶一、海老原 隆、小泉 信一、千葉 慎二、David Brenner、Stephen Hedrick、Steven F. Ziegler、Omid Akbari、Naoto Hirano、Mitchell Kronenberg、Peter Ernst、Andreas Diefenbach、Alfred Singer
事業期間	令和元年度～令和７年度（原則７年間）
補助金額	令和元年度　200,000,000円　令和２年度　185,000,000円 令和３年度　150,000,000円　令和４年度　115,000,000円 令和５年度　100,000,000円　令和６年度　80,000,000円 令和７年度　65,000,000円（予定） ［研究拠点形成費等補助金（卓越大学院プログラム事業費）］



ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
［令和４年度大学教育再生戦略推進費］

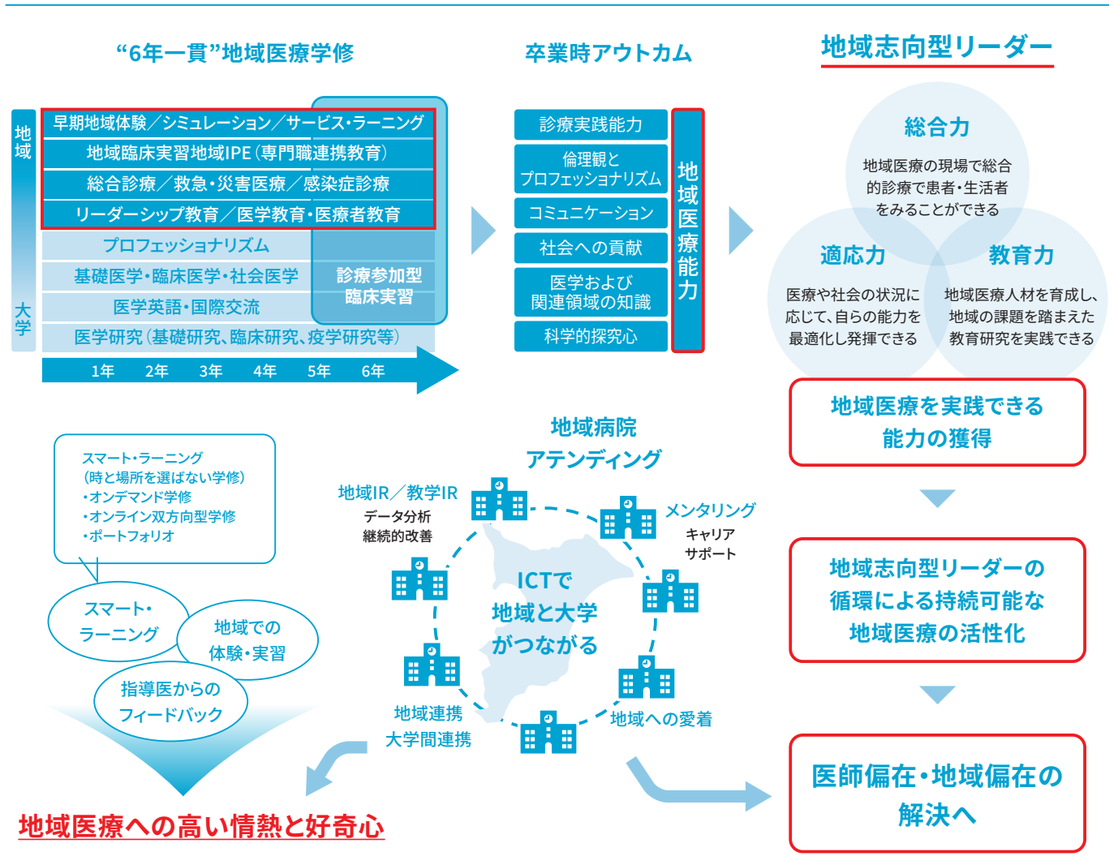
事項	内容
事業名称	地域医療への高い情熱と好奇心を涵養して総合力・適応力・教育力を醸成する地域指向型医療人材養成プログラム
実施体制	千葉大学、東邦大学
責任者	中谷　晴昭（千葉大学理事）
実施期間	令和4年度～令和10年度
補助金額	令和４年度　78,620,000円　令和５年度　56,715,000円　令和６年度 48,000,000円 令和７年度　48,000,000円（予定） （共同実施大学合計）

千葉大学 CHIBA UNIVERSITY　東邦大学

地域医療への高い情熱と好奇心を涵養して総合力・適応力・教育力を醸成する

c-come Chiba Community-Oriented Medical Education

地域志向型医療人材養成プログラム



次世代のがんプロフェッショナル養成プラン
［令和５年度大学教育再生戦略推進費］

事項	内容
事業名称	関東次世代のがん専門医療人養成プラン
実施体制	筑波大学、千葉大学、群馬大学、日本医科大学、東京慈恵会医科大学、昭和大学、獨協大学、埼玉医科大学
責任者	堺田　惠美子（大学院医学研究院 内分泌代謝・血液・老年内科学・准教授）
実施期間	令和5年度～令和10年度
補助金額	令和5年度　77,470,000円　令和6年度　92,872,000円　令和7年度　92,872,000円（予定） （共同実施大学合計）





HISTORY

沿革図

History

- 明7.7 共立病院
  - 明9.10 （公立）千葉病院
    - 千葉病院医学教場
      - 明15.7 県立千葉医学校
        - 明20.9 国立移管 第一高等中学校医学部医学科
          - 明27.7 第一高等学校医学部医学科
            - 明34.4 千葉医学専門学校医学科
              - 大12.4 千葉医科大学附属医学専門部（大14.3廃止）
            - 大12.4 千葉医科大学
              - 昭14.5 千葉医科大学臨時附属医学専門部
                - 昭19.4 千葉医科大学附属医学専門部
                - 昭21.9 （千葉医科大学附属腐敗研究所）
              - 昭24.5.31 医学部
                - 医学専門課程（昭26.4.1設置，平6.3.31廃止）
                - 医学進学課程（昭30.4.1設置，平6.3.31廃止）
                - 附属病院
                - 附属病院分院（昭37.3.31廃止）
                - 附属看護学校（昭26.4.1設置，平14.3.31廃止）
                - 附属助産婦学校（昭33.4.1設置，平14.3.31廃止）
                - 附属診療エックス線技師学校（昭32.4.1設置）
                  - 附属診療放射線技師学校（昭44.4.1改組，平14.3.31廃止）
                - 附属肺癌研究施設（昭34.4.1設置，平13.3.31廃止）
                - 附属農山村医学研究施設（昭39.4.1設置）
                - 附属脳機能研究施設（昭41.4.1設置）
                - 附属動物実験施設（昭53.4.1設置，平13.4.1医学研究院へ移行）
                - 附属環境疫学研究施設（昭49.4.11改組）
                  - 附属高次機能制御研究センター（昭63.4.8統合，平10.3.31廃止）
              - 昭30.4.1 大学院
                - 医学研究科（昭30.4.1設置，平13.3.31廃止）
                - 医学研究院（平13.4.1設置，平24.7.1改組）
                  - 附属クリニカル・スキルズ・センター（平24.2.1設置）
                  - 附属動物実験施設（平13.4.1医学部から移行）
                  - 附属法医学教育研究センター（平26.4.1設置）
                  - 附属超高齢社会研究センター（平26.4.1設置）
                  - 附属粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター（平28.4.1設置）
                  - 附属治療学人工知能（AI）研究センター（平30.4.1設置）
                  - 附属バイオリソース教育研究センター（平30.4.1設置，令5.9.30廃止）
                - 医学薬学府（平13.4.1設置，平24.4.1改組）
                  - 附属薬用資源教育研究センター（平13.4.1薬学部から移行）
    - 千葉医科大学
      - 大12.4 千葉医科大学附属医学専門部（大14.3廃止）
      - 昭14.5 千葉医科大学臨時附属医学専門部
        - 昭19.4 千葉医科大学附属医学専門部
        - 昭21.9 （千葉医科大学附属腐敗研究所）
      - 昭24.5.31 医学部
        - 医学専門課程（昭26.4.1設置，平6.3.31廃止）
        - 医学進学課程（昭30.4.1設置，平6.3.31廃止）
        - 附属病院
        - 附属病院分院（昭37.3.31廃止）
        - 附属看護学校（昭26.4.1設置，平14.3.31廃止）
        - 附属助産婦学校（昭33.4.1設置，平14.3.31廃止）
        - 附属診療エックス線技師学校（昭32.4.1設置）
          - 附属診療放射線技師学校（昭44.4.1改組，平14.3.31廃止）
        - 附属肺癌研究施設（昭34.4.1設置，平13.3.31廃止）
        - 附属農山村医学研究施設（昭39.4.1設置）
        - 附属脳機能研究施設（昭41.4.1設置）
        - 附属動物実験施設（昭53.4.1設置，平13.4.1医学研究院へ移行）
        - 附属環境疫学研究施設（昭49.4.11改組）
          - 附属高次機能制御研究センター（昭63.4.8統合，平10.3.31廃止）
      - 昭30.4.1 大学院
        - 医学研究科（昭30.4.1設置，平13.3.31廃止）
        - 医学研究院（平13.4.1設置，平24.7.1改組）
          - 附属クリニカル・スキルズ・センター（平24.2.1設置）
          - 附属動物実験施設（平13.4.1医学部から移行）
          - 附属法医学教育研究センター（平26.4.1設置）
          - 附属超高齢社会研究センター（平26.4.1設置）
          - 附属粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター（平28.4.1設置）
          - 附属治療学人工知能（AI）研究センター（平30.4.1設置）
          - 附属バイオリソース教育研究センター（平30.4.1設置，令5.9.30廃止）
        - 医学薬学府（平13.4.1設置，平24.4.1改組）
          - 附属薬用資源教育研究センター（平13.4.1薬学部から移行）
  - 千葉医学専門学校医学科
    - 明34.4 千葉医学専門学校薬学科
      - 大11.4 千葉医学専門学校附属医院
        - 大12.4 千葉医科大学附属医院
        - 明34.4 千葉医学専門学校薬学科
          - 大12.4 千葉医科大学附属薬学専門部
  - 千葉医学専門学校附属医院
    - 大12.4 千葉医科大学附属医院
    - 明34.4 千葉医学専門学校薬学科
      - 大12.4 千葉医科大学附属薬学専門部
- 千葉病院医学教場
  - 明15.7 県立千葉医学校
    - 明20.9 国立移管 第一高等中学校医学部医学科
      - 明27.7 第一高等学校医学部医学科
        - 明34.4 千葉医学専門学校医学科
          - 大12.4 千葉医科大学附属医学専門部（大14.3廃止）
        - 大12.4 千葉医科大学
          - 昭14.5 千葉医科大学臨時附属医学専門部
            - 昭19.4 千葉医科大学附属医学専門部
            - 昭21.9 （千葉医科大学附属腐敗研究所）
          - 昭24.5.31 医学部
            - 医学専門課程（昭26.4.1設置，平6.3.31廃止）
            - 医学進学課程（昭30.4.1設置，平6.3.31廃止）
            - 附属病院
            - 附属病院分院（昭37.3.31廃止）
            - 附属看護学校（昭26.4.1設置，平14.3.31廃止）
            - 附属助産婦学校（昭33.4.1設置，平14.3.31廃止）
            - 附属診療エックス線技師学校（昭32.4.1設置）
              - 附属診療放射線技師学校（昭44.4.1改組，平14.3.31廃止）
            - 附属肺癌研究施設（昭34.4.1設置，平13.3.31廃止）
            - 附属農山村医学研究施設（昭39.4.1設置）
            - 附属脳機能研究施設（昭41.4.1設置）
            - 附属動物実験施設（昭53.4.1設置，平13.4.1医学研究院へ移行）
            - 附属環境疫学研究施設（昭49.4.11改組）
              - 附属高次機能制御研究センター（昭63.4.8統合，平10.3.31廃止）
          - 昭30.4.1 大学院
            - 医学研究科（昭30.4.1設置，平13.3.31廃止）
            - 医学研究院（平13.4.1設置，平24.7.1改組）
              - 附属クリニカル・スキルズ・センター（平24.2.1設置）
              - 附属動物実験施設（平13.4.1医学部から移行）
              - 附属法医学教育研究センター（平26.4.1設置）
              - 附属超高齢社会研究センター（平26.4.1設置）
              - 附属粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター（平28.4.1設置）
              - 附属治療学人工知能（AI）研究センター（平30.4.1設置）
              - 附属バイオリソース教育研究センター（平30.4.1設置，令5.9.30廃止）
            - 医学薬学府（平13.4.1設置，平24.4.1改組）
              - 附属薬用資源教育研究センター（平13.4.1薬学部から移行）
      - 明23.7 第一高等中学校医学部薬学科
        - 明27.9 第一高等学校医学部薬学科
          - 明34.4 千葉医学専門学校薬学科
            - 大12.4 千葉医科大学附属薬学専門部

明治

7 年 7 月　千葉町、寒川村、登戸村の有志の醵金により共立病院が設立された。

9 年 10 月　公立千葉病院と改称され、医学教場が付設された。

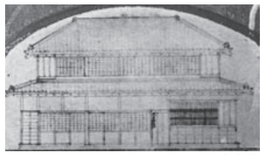
15 年 7 月　同病院が改組されて県立千葉医学校及び附属病院が設置された。

20 年 9 月　高等中学校令の施行に伴い県立千葉医学校は官立に移管されて
第一高等中学校医学部となった。

21 年 3 月　県立千葉医学校附属病院が県立千葉病院と改称された。

27 年 7 月　高等学校令の施行に伴い第一高等学校医学部となった。

34 年 4 月　千葉医学専門学校と改称した。


共立病院


県立千葉病院

大正

11 年 4 月　県立千葉病院が千葉医学専門学校附属医院となった。
看護婦講習所、産婆講習所が設置された。

12 年 4 月　官立医科大学官制改正により千葉医学専門学校は千葉医科大学に昇格した。
（基礎 8 講座・臨床 11 講座、入学定員 60 名・修業年限 4 年）
同時に千葉医学専門学校附属医院は、千葉医科大学附属医院と改称された。
また、千葉医科大学附属医学専門部と附属薬学専門部が置かれた。

14 年 3 月　千葉医科大学附属医学専門部が廃止された。


千葉医科大学本館

昭和

5 年 4 月　千葉医科大学の入学定員が 80 名となった。

12 年 8 月　附属医院新館が完成し移転した。

14 年 5 月　千葉医科大学臨時附属医学専門部が設置された。

19 年 4 月　千葉医科大学臨時附属医学専門部が千葉医科大学附属医学専門部と改称された。

20 年 4 月　千葉医科大学附属医院厚生女学部が設置された。

21 年 9 月　千葉医科大学に附属腐敗研究所が設置された。

24 年 5 月　国立学校設置法が公布され，千葉大学が設置された。
千葉医科大学を母体として医学部が置かれ、同時に千葉医科大学附属医院は
医学部附属病院となった。（基礎 12 講座・臨床 10 講座）

26 年 4 月　医学専門課程が置かれた。厚生女学部が附属看護学校となった。

28 年 4 月　公衆衛生学講座が設置された。

29 年 4 月　整形外科学講座，放射線医学講座が設置された。

30 年 4 月　医学進学課程が設置された。
大学院医学研究科（博士課程）が設置された。

31 年 4 月　医動物学講座が設置された。

32 年 4 月　附属診療エックス線技師学校が設置された。

33 年 4 月　附属助産婦学校が設置された。

34 年 4 月　附属肺癌研究施設（臨床研究部）が設置された。


附属医院新館

35 年 4 月　泌尿器科学講座が設置された。
医動物学講座が寄生虫学講座と改称された。

37 年 4 月　歯科口腔外科学講座が設置された。

38 年 9 月　医学部創立 85 周年を記念した、ゐのはな記念講堂が竣工した。

39 年 4 月　附属農山村医学研究施設（農山村予防医学研究部）が設置された。
麻酔学講座が設置された。

40 年 4 月　入学定員 20 名増加し、定員が 100 名となった。
附属肺癌研究施設に病理研究部が設置された。

41 年 4 月　附属脳機能研究施設（向神経薬研究部）が設置された。
附属診療エックス線技師学校上級課程が設置された。

42 年 4 月　生化学第二講座が設置された。

43 年 4 月　附属肺癌研究施設に第二臨床研究部が設置された。

44 年 4 月　附属診療エックス線技師学校が附属診療放射線技師学校に改組された。

45 年 4 月　脳神経外科学講座が設置された。

46 年 3 月　附属図書館亥鼻分館が設置された。

49 年 4 月　内科学第三講座が設置された。
入学定員 20 名増加し、定員が 120 名になった。
附属農山村医学研究施設が附属環境疫学研究施設
（農村医学研究部及び免疫研究部）に改組された。

52 年 4 月　附属脳機能研究施設に神経内科研究部が設置された。

53 年 2 月　新附属病院が建設され移転した。

4 月　附属動物実験施設が設置された。

54 年 4 月　向神経薬研究部（附属脳機能研究部）が神経薬理研究部と改称された。

55 年 8 月　医学部が旧附属病院建物に移転、同建物は医学部本館となった。

56 年 4 月　微生物学第二講座が設置された。

57 年 4 月　神経精神医学講座が精神医学講座と改称された。

9 月　附属動物実験施設が竣工した。

58 年 3 月　亥鼻地区体育館が竣工した。
亥鼻地区サークル会館（旧精神科病棟を改修）が完成した。

62 年 4 月　入学定員が 20 名減となり，定員が 100 名となった。

5 月　附属脳機能研究施設に神経生理研究部門（時限 10 年）が設置された。

63 年 4 月　附属環境疫学研究施設及び脳機能研究施設を拡充改組し、附属高次機能制御研究センター（時限 10 年）が設置された。
神経内科学講座（部門の転換）が設置された。


新附属病院


附属動物実験施設

平成

2 年　6 月　小児外科学講座が設置された。

5 年　4 月　臨床検査医学講座が設置された。

6 年　3 月　医学専門課程、医学進学課程が廃止された。

6 月　救急医学講座が設置された。

8 年　7 月　附属図書館亥鼻分館新館が竣工した。


附属図書館亥鼻分館新館

10 年　4 月　附属高次機能制御研究センターが廃止され、大学院医学研究科に高次機能系専攻（独立専攻）が設置された。
遺伝子病態学（ノボ ノルディスク ファーマ）寄附講座が設置された。（～ H15.3）

9 月　分子免疫学（大正製薬）寄附講座が設置された。（～ H14.3）

12 年　4 月　学士入学（3 年次編入学 MD － PhD コース）制度（定員 5 名）が導入された。

13 年　3 月　大学院医学研究科が廃止された。附属肺癌研究施設が廃止された。

4 月　大学院医学研究院（6 研究部門 13 講座 60 研究領域（形成外科学、肝胆膵重粒子線治療学、頭頸部腫瘍学、
眼科重粒子線治療学、泌尿器科腫瘍重粒子線治療学、神経疾患重粒子線治療学、基礎病態学、婦人科腫瘍重粒子線治療学、
免疫細胞医学、分子統合生理学、臨床遺伝子応用医学、分子腫瘍学、脳機能学を新たに設置された。）1 連携講座を含む。）、
大学院医学薬学府（4 年博士課程 3 専攻、後期 3 年博士課程 1 専攻、修士課程 2 専攻）が設置された。
医学部附属動物実験施設が大学院医学研究院附属動物実験施設へ移行された。

4 月　薬学部附属薬用資源教育センターが大学院医学薬学府附属薬用資源教育センターへ移行された。
医学部は講座制を廃止し，学科目制に変更された。

9 月　大学院医学研究院に SRL 環境健康医学寄附講座が設置された。（～ H16.12）

10 月　大学院医学研究院に治療探索研究（興和）寄附講座が設置された。（～ H19.9）

14 年　1 月　大学院医学研究院に機能ゲノム学寄附講座が設置された。（～ H17.3）

3 月　附属看護学校、附属助産婦学校、附属診療放射線技師学校が廃止された。

15 年　9 月　平成 15 年度「21 世紀 COE プログラム」研究教育拠点形成費により、「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」が
採択された。

16 年　3 月　医学部勝山セミナーハウス〔旧医学部臨海実験所（勝山寮）〕が 1 棟新営された。

4 月　千葉大学医薬系総合研究棟地下 1 階、地上 10 階が竣工し、8 階 9 階に大学院医学研究院を母体として
「千葉大学バイオメディカル研究センター」が設置された。
国立大学法人法の施行により、国立大学は各大学ごとに法人化され、国立大学法人千葉大学が設立された。

7 月　千葉大学医薬系総合研究棟が 4 月に竣工したのを受け、記念式典、
祝賀会が執り行われた。

11 月　大学院医学研究院に心血管病態解析学寄附講座（～ H22.10）
及び遺伝子治療寄附講座が設置された。（～ H21.10）

17 年　4 月　大学院医学薬学府に医学系の修士課程「医科学専攻（20 名）」が
設置された。
大学院医学研究院を母体として「千葉大学社会精神保健教育研究
センター」が設置された。


千葉大学医薬系総合研究棟

17 年　4 月　大学院医学研究院環境・高齢健康科学研究部門に研究領域としてあらたに和漢診療学が設置された。
大学院医学研究院において、連携講座として病態制御研究部門に分子腫瘍生物学、生体情報臨床医学研究部門に
放射線防御機能学が設置された。

5 月　大学院医学研究院に先端和漢診療学寄附講座（ツムラ）が設置された。（～ H23.4）

7 月　大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに機能ゲノム学が設置された。
平成 17 年度「特色ある大学教育支援プログラム」大学改革推進等補助金により、「診断能力向上をめざす
臨床医学教育の取組み」が採択された。

10 月　平成 17 年度「『魅力ある大学院教育』イニシアティブ」研究拠点形成費
等補助金により、「情報集積型医療創薬を担う若手研究者の育成」が採択
された。


医学部本館

18 年　1 月　大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに生命
情報科学と臨床診断学が設置された。

4 月　医学部に医学教育を専任で担当する医学教育研究室が設置された。
大学院医学研究院発生・再建医学研究部門に連携講座として免疫制御学
が設置された。

19 年　5 月　大学院医学研究院に先端腫瘍治療医学研究部門臨床腫瘍学講座が設置された。

6 月　柏の葉キャンパス地区に「千葉大学予防医学センター」が設置された。

7 月　大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに疾患生命医学が設置された。
大学院医学研究院にがん分子免疫治療学（テラ）寄附講座が設置された。（～ H22.3）
平成 19 年度「がんプロフェッショナル養成プラン」大学改革推進等補助金により、
「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」が採択された。（～ H24.3）

9 月　平成 19 年度「大学院教育改革支援プログラム」研究拠点形成費等補助金により、「世界規模の治験・臨床研究を担う
医療人育成」が採択された。

10 月　亥鼻キャンパス内に千葉大亥鼻イノベーションプラザが医療系　大学連携
型起業家育成施設としては日本で初めて
大学内に設置された。


医学部附属病院新病棟

20 年　4 月　医学部附属病院の新病棟が竣工し、ひがし棟 1 階に未来開拓センターが
開設された。

6 月　循環型地域医療連携システム学（千葉）寄附講座が設置された。
（～ H25.3）
平成 20 年度「グローバル COE プログラム」研究教育拠点形成費等補助金
により「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」が採択された。
（～ H25.3）

9 月　平成 20 年度「質の高い大学教育推進プログラム」大学改革推進等補助金により、「学習成果基盤型教育による医学教
育の実質化」が採択された。

21 年　4 月　入学定員が 10 名増となり、定員が 110 名（3 年次編入学 MD-PhD コース定員 5 名含む）となった。
大学院医学研究院先端応用医学研究部門に研究領域としてあらたに心臓血管外科学が設置された。

22 年　4 月　入学定員が 5 名増となり、定員が 115 名（3 年次編入学 MD-PhD コース定員 5 名含む）となった。
大学院医学研究院神経科学研究部門に連携講座として精神神経科学が設置された。

23 年　4 月　入学定員が 5 名増となり、定員が 120 名（3 年次編入学 MD-PhD コース定員 5 名含む）となった。
大学院医学研究院に子どものこころの発達研究センターが設置された。
大学院医学研究院において、連携講座として病態制御部門に医療行政学が設置された。

6 月　千葉大学医薬系総合研究棟 II が竣工した。


千葉大学医薬系総合研究棟 II

10 月　先進加齢医学寄附講座が設置された。

24 年　1 月　大学院医学研究院を母体として「千葉大学未来医療教育研究センター」が設置された。

2 月　大学院医学研究院にクリニカル・スキルズ・センターが設置された。

4 月　「がんプロフェショナル養成基盤推進プラン」大学改革推進等補助金による「国際協力者がん臨床指導者養成拠点」が採択された。
「子どものこころの発達研究センター」を母体として、大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科に新規参加した。
大学院医学薬学府、 4 年博士課程を 3 専攻から 1 専攻に改組された。

7 月　大学院医学研究院、7 研究部門 13 講座から 2 研究部門 7 講座に改組された。

10 月　平成 24 年度博士課程教育リーディングプログラム（免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム）が採択された。

25 年　4 月　入学定員が 2 名増となり、定員が 122 名（3 年次編入学 MD-PhD コース定員 5 名含む）となった。
総合医科学講座が設置された。
地域災害医療学寄附講座が設置された。
先進気道アレルギー学寄附講座が設置された。

8 月　「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に選定された。（～ H30.3）

26 年　2 月　千葉大学医学部新ゐのはな同窓会館が竣工した。

3 月　「平成 25 年度国立大学強化推進補助金（次世代対応型医療人育成と「治療学」拠点創世のための亥鼻キャンパス高機能化構想）」が採択された。（～ R4.3）
医学部記念講堂の改修工事が完了した。

4 月　大学院医学研究院に法医学教育研究センター及び超高齢社会研究センターが設置された。
先端肺高血圧症医療学寄附講座が設置された。（～ R3.3）
医学部附属病院の新外来診療棟が竣工した。


医学部附属病院新外来診療棟

7 月　千葉大学未来医療教育研究機構が設置された。
大学院医学研究院、 2 研究部門 7 講座から 2 研究部門 9 講座に改組された。

27 年　2 月　分子生体制御学研究領域が疾患生命医学研究領域に改称された。

4 月　大学院医学研究院を母体として「千葉大学再生治療学研究センター」が設置された。
大学院医学研究院の附属施設「子どものこころの発達研究センター」を改組し、「千葉大学子どものこころの発達教育研究センター」が設置された。

10 月　循環器病先端治療学寄附講座が設置された。（～ H30.9）

28 年　4 月　大学院医学研究院に粘膜免疫・アレルギー治療学研究センターが設置された。
先進予防医学共同専攻が設置された。

7 月　近赤外画像診断学寄附講座が設置された。（～ H31.6）

29 年　3 月　生命機能治療学研究講座解剖学研究領域が、脳・神経治療学研究講座機能形態学領域に改称された。

4 月　呼吸器疾患治療開発戦略共同研究講座が設置された。（～ R2.3）
消化器・腎臓内科学研究領域が消化器内科学研究領域、腎臓内科学研究領域に改組された。

10 月　ゲノム医科学連携講座及び医療機器国際基準認証学連携講座が設置された。

30 年　4 月　国際アレルギー粘膜免疫学研究領域、オミクス治療学研究領域、人工知能（AI）医学研究領域が設置された。
先端脊椎関節機能再建医学寄附講座が設置された。（～ R7.3）
大学院医学研究院に治療学人工知能（AI）研究センター及びバイオリソース教育研究センターが設置された。

5 月　次世代型健康長寿ホルモンアカデミー寄附講座（～ R8.3）及び国際粘膜免疫・病態制御学連携講座が設置された。

10 月　神経内科学研究領域が脳神経内科学研究領域に改称された。
不整脈先端治療学寄附講座が設置された。（～ R6.9）

31 年　1 月　細胞治療内科学研究領域が内分泌代謝・血液・老年内科学研究領域に改称された。
産学連携治療学連携講座が設置された。

令和

元 年　6 月　難治性呼吸器疾患・肺高血圧症研究講座が設置された。（～ R6.3）

10 月　運動器科学革新医療創成寄附講座が設置された。（～ R5.9）

2 年　4 月　千葉大みらい医療基金が設立された。

5 月　分子病態治療学寄附講座が設置された。（～ R6.3）
病理解析工学連携講座及びマクロ病理診断学連携講座が設置された。

3 年　1 月　医学部附属病院の新中央診療棟が竣工した。

4 月　医学系総合研究棟（治療学研究棟）が竣工した。MR 画像誘導即時適応放射線治療学寄附講座が設置された。（～ R5.3）
先端再生形成外科学寄附講座が設置された。（～ R6.3）


医学系総合研究棟（治療学研究棟）

10 月　千葉大学災害治療学研究所が設置された。

4 年　4 月　地域消化器内科人材育成・調査研究寄附講座が設置された。（～ R7.3）
千葉県寄附講座 地域医療教育学講座が設置された。（～ R7.3）

6 月　文部科学省補助事業「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に選定された。

10 月　千葉大学未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点が設置された。

5 年　9 月　附属バイオリソース教育研究センターが廃止された。

10 月　健康疾患オミクスセンターが設置された。

6 年　9 月　再生治療学研究センターが廃止された。

10 月　ヒト免疫疾患治療研究・開発センター（cCHID）が設置された。

歴代学部長・研究院長等



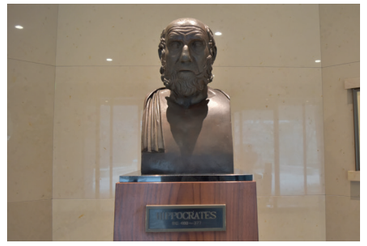
医学部長・医学研究院長
三木　隆司

（令和6年5月1日現在）

区分		氏名	在職期間
第一高等中学校医学部長		長尾精一	明治 20．12 ～ 明治 27．6
第一高等学校医学部長		長尾精一	明治 27．7 ～ 明治 34．3
千葉医学専門学校長心得		長尾精一	明治 34．4 ～ 明治 34．5
千葉医学専門学校長		長尾精一	明治 34．6 ～ 明治 35．7
千葉医学専門学校長心得		荻生録造	明治 35．7 ～ 明治 35．10
千葉医学専門学校長		荻生録造	明治 35．11 ～ 大正 3．12
		三輪徳寛	大正 3．12 ～ 大正 12．3
千葉医科大学長		三輪徳寛	大正 12．4．1 ～ 大正 13．2．4
		松本高三郎	大正 13．2．5 ～ 昭和 4．7．31
		高橋信美	昭和 4．8．1 ～ 昭和 15．11．6
		小池敬事	昭和 15．11．7 ～ 昭和 24．5．30
千葉大学医学部長	（千葉大学長兼任）	小池敬事	昭和 24．5．31 ～ 昭和 24．10．5
		加賀谷勇之助	昭和 24．10．6 ～ 昭和 27．10．5
		赤松茂	昭和 27．10．6 ～ 昭和 30．10．5
		荒木直躬	昭和 30．10．6 ～ 昭和 33．10．5
		谷川久治	昭和 33．10．6 ～ 昭和 37．3．1
	（事務取扱）	谷川久治	昭和 37．3．2 ～ 昭和 37．3．31
		鈴木正夫	昭和 37．4．1 ～ 昭和 39．3．31
		滝沢延次郎	昭和 39．4．1 ～ 昭和 42．3．31
		鈴木次郎	昭和 42．4．1 ～ 昭和 43．1．11
	（事務取扱）	谷川久治	昭和 43．1．12 ～ 昭和 43．1．24
		小林龍男	昭和 43．1．25 ～ 昭和 44．5．29
	（事務取扱）	相磯和嘉	昭和 44．5．30 ～ 昭和 44．11．30
		相磯和嘉	昭和 44．12．1 ～ 昭和 45．7．31
		松本胖	昭和 45．8．1 ～ 昭和 48．3．31
		横川宗雄	昭和 48．4．1 ～ 昭和 50．3．31
		香月秀雄	昭和 50．4．1 ～ 昭和 51．7．31
		横川宗雄	昭和 51．8．1 ～ 昭和 53．7．31
		井出源四郎	昭和 53．8．1 ～ 昭和 57．7．31
		萩原彌四郎	昭和 57．8．1 ～ 昭和 59．7．31
		吉田亮	昭和 59．8．1 ～ 昭和 61．7．31
		木村康	昭和 61．8．1 ～ 昭和 63．7．31
		村山智	昭和 63．8．1 ～ 平成 2．7．31
		林豊	平成 2．8．1 ～ 平成 4．7．31
		近藤洋一郎	平成 4．8．1 ～ 平成 6．7．31
		高橋英世	平成 6．8．1 ～ 平成 8．7．31
		谷口克	平成 8．8．1 ～ 平成 12．7．31
		福田康一郎	平成 12．8．1 ～ 平成 17．3．31
		徳久剛史	平成 17．4．1 ～ 平成 21．3．31
		中谷晴昭	平成 21．4．1 ～ 平成 25．3．31
		横須賀收	平成 25．4．1 ～ 平成 27．3．31
		中山俊憲	平成 27．4．1 ～ 令和 3．3．31
		松原久裕	令和 3．4．1 ～ 令和 5．3．31
		三木隆司	令和 5．4．1 ～
千葉大学大学院医学研究院長		福田康一郎	平成 13．4．1 ～ 平成 17．3．31
		徳久剛史	平成 17．4．1 ～ 平成 21．3．31
		中谷晴昭	平成 21．4．1 ～ 平成 25．3．31
		横須賀收	平成 25．4．1 ～ 平成 27．3．31
		中山俊憲	平成 27．4．1 ～ 令和 3．3．31
		松原久裕	令和 3．4．1 ～ 令和 5．3．31
		三木隆司	令和 5．4．1 ～
千葉大学大学院医学薬学府長		千葉胤道	平成 13．4．1 ～ 平成 15．3．31
	（薬学研究院教授）	石川勉	平成 15．4．1 ～ 平成 17．3．31
		守屋秀繁	平成 17．4．1 ～ 平成 19．3．31
	（薬学研究院教授）	山本恵司	平成 19．4．1 ～ 平成 20．3．31
	〃	堀江利治	平成 20．4．1 ～ 平成 21．3．31
		張ヶ谷健一	平成 21．4．1 ～ 平成 23．3．31
	（薬学研究院教授）	山本友子	平成 23．4．1 ～ 平成 25．3．31
		羽田明	平成 25．4．1 ～ 平成 27．3．31
	（薬学研究院教授）	山口直人	平成 27．4．1 ～ 平成 29．3．31
		白澤浩	平成 29．4．1 ～ 平成 31．3．31
	（薬学研究院教授）	伊藤素行	平成 31．4．1 ～ 令和 3．3．31
		齋藤哲一郎	令和 3．4．1 ～ 令和 5．3．31
	（薬学研究院教授）	小椋康光	令和 5．4．1 ～ 令和 6．3．31
	〃	伊藤素行	令和 6．4．1 ～

亥鼻地区の記念碑等

Monuments of Inohana Campus



ヒポクラテス胸像



辛亥革命記念碑

この胸像は、医学系総合研究棟4階南側玄関入口正面に置かれており、嶋田宗之先生（昭和9年卒業）から寄贈された。

医学の祖、ヒポクラテス（Hippocrates，BC460 ～ 377）を医の倫理の原点として，ことに若い医学徒達に思い起こして欲しいとの嶋田先生のお心に由来する。昭和61年（1986年）1月27日、先生ご夫妻他多数のご列席のもとに除幕式が挙行された。

プレートには次のように記されている。

この胸像はフィレンツェのウフィッツイ美術館所蔵のものの複製（1980年）を本学昭和9年卒の嶋田宗之先生が寄贈されたものである。
1985年12月千葉大学医学部

この記念碑（高さ228cm巾82cm厚さ14cm）は、大正元年（1912年）11月9日に建立され、その後場所を変え、現在、旧医学部本館前庭の一隅に建てられている。

当時の中国は、外からは外国の侵略に晒され、内にあっては清朝末期の堕落した王朝政治が行詰り、内憂外患革命の気運漸く昂まるという状況にあった。その頃、わが千葉医学専門学校には、39名の中国留学生が滞留して居り、祖国の難を憂え、同士相集いて救国の志に燃え、戦陣に駆け参ずることを誓いあったのである。この快挙を契機に他の大学にもその情報は波及し、多勢の中国留学生の決起を促すことになったというのである。

碑文の中の諸先生とは、時の校長荻生録造先生であり、学生の要請を受けて文部省、外務省に要望し、戦陣より帰還の後必ず復学せしむるとの認可を取り付け、戦陣へ送り出すことを決したという。

1911年秋から翌12年春にかけて孫文先生を盟主として熾烈な戦闘の末、同年3月9日孫文先生を臨時大統領として中華民国樹立を果たしたのである。戦時に馳せ参じた留学生も同年4月頃には帰学することとなり、全学挙げての支援に感謝し、恩義に対する礼節を示すために半歳を費やして記念碑を建立したのである。

碑文の全容

王綱紐を解きてより（清朝宣統皇帝の退位）共和政治が始めて打ち建てられ、中華民国が出来たが、国歩艱難、戦争は絶えず。伏屍は川を塞ぎ、山野を血ぬらせている。この人民の悲しみは誰が護るのであろうか。三軍を励ますのは赤十字の旗、生死肉骨難を救い危機を助ける。諸先生も学友達も極めて公平で、平和な世の中を願っている。世の中に仁寿を致し、人道を広め、徳意が盛んである。樹を植え、碑を建てて万年永く讃える。（土井申一訳）



明治42(1909)頃



記念像



長尾精一君像



荻生録造君像

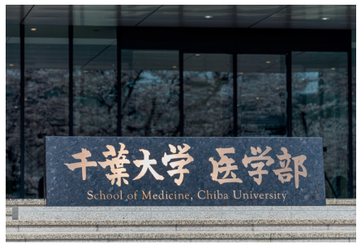
この塔は、医学部旧正門を入って正面の木立の中に立っている。向って右側面に長尾精一先生像が、左側面に荻生録造先生像のレリーフがはめ込まれている。

正面に医学部創立85周年（昭和35年）の記として、次の一文が刻まれている。

君は明治13年6月初めて公立千葉病院長として来任し、同院が県立千葉医学校、第一高等中学校医学部、第一高等学校医学部、千葉医学専門学校と逐次昇進するに随うて、常にその長となり、明治35年7月病没する迄本学部前身の発展の為に挺身した。

君は明治17年7月県立千葉医学校教諭として来任し、同35年11月長尾精一の跡を襲うて千葉医学専門学校長となり、大正3年12月病没する迄本校の拡充進展に努めた。

明治中、両君の功を称え徳を頌して銅像が建てられたが恨むらくは戦禍を蒙った、今次千葉大学医学部創立85周年を迎えるに當り　舊基に就いて遺影を刻して聊か復元の意を表す。



医学系総合研究棟前の石碑

医学系総合研究棟（治療学研究棟）の南玄関前にある石碑には「千葉大学医学部」の名が刻まれているが、これは医学系総合研究棟（治療学研究棟）の完成に際して、書家・髙木聖雨（たかきせいう）先生に揮毫いただいたものである。



七天王塚



4号塚



6号塚

千葉市を流れる都川は、下総台地の西北を回って千葉港に注ぐ。この大地の鼻先が亥鼻台である。亥鼻の南に続く台地が矢作台であり、西のそれが葛城台である。千葉医大の構地は広く、亥鼻と矢作の両台に跨がるが、これら両台のうち亥鼻台に俗にいう千葉の七天王塚がある。七天王塚のうち五塚は千葉医大の旧附属病院の南側に散在し、残る二塚は旧東金街道が北に向って、いわゆる大学坂となって終る頃、その西側にある。

千葉の里人は、これら七塚を牛頭天王の七塚と呼び、昔から畏敬の念を持って守ってきた。この七天王塚は「図」に示した如く、一号から七号までの番号がつけられている。

これら七塚の大きさは、いずれも10mの円ないし類円形にみえた。また、その高さは第一および第二号が1.5mほどの小円墳を思わせ、残りの五塚すなわち医大の構内のものは、高さ0.5m程度の盤状であった。

塚のいずれにも数本の大樹をみる。樹種には楠が多く、その中でも最大は三号塚のそれで、胸高幹囲りが約6m、推定の樹齢は150年であった。また昭和54年の晩秋に枯れた七号塚の松の幹囲りは約5m、推定の樹齢は約200年であった。

多くの老樹または神木に小枝一本払い落しても「祟る」との民俗学的伝承がある。

七天王塚の老木の根元には高さ50cm足らずの数基の石碑がひっそりと並んでいた。風化のため碑面を読むことができないものも若干あったが、石碑の形、大きさを参考として碑文の大部分を読み取ることができた。石碑は8種類。そのうち造営年月が最も古く、かつ、いずれの塚にも見ることができたものは1種類あった。それは正面の題銘が「堀内牛頭天王」。脇の施主銘が「大治元丙午六月朔　平常重代」。造営銘が「安永癸巳造営」と刻してあった。

千葉市は昭和35年3月に牛頭天王七塚を千葉市指定史跡と認定し、昭和49年3月の日付で次の文を各塚に掲げた。

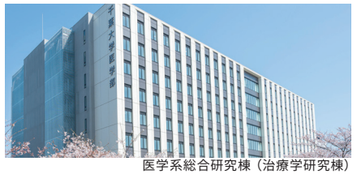
千葉大学附属病院裏に散在するこの七つの古塚は「七天王塚」と呼ばれ、疫病、災害を除く神として崇められている。塚の上の石碑に刻まれる「牛頭天王」は千学集に記される千葉の守護神は曽場鷹大明神、堀内牛頭天王云々に相当てられる。猪鼻城の大手口に七つの塚を千葉氏の崇敬する北斗七星の形に配置し、牛頭天王を祀り一族の繁栄を祈ったものであろう。また一説に千葉氏の七人の兄弟を葬った墓とか平将門の「七騎武者の墓」とも伝えられるが定かでない。

（千葉市教育委員会　昭和49年3月）



土地・建物一覧

Summary of Inohana Campus


医学系総合研究棟（治療学研究棟）


あのはな記念講堂


あのはな同窓会館


亥鼻地区サークル会館


亥鼻地区体育館


学生寄宿舎（雄翔寮）


勝山セミナーハウス

区分	面積（㎡）	所在地
亥鼻団地	266,033	千葉市中央区亥鼻1-8-1
勝山団地	1,512	安房郡鋸南町勝山398-1
合　　計	267,545	

名称	構造階数	建面積（㎡）	延面積（㎡）
医学系総合研究棟 （治療学研究棟） 令和3年	SR造 地上11	4,955	40,827
附属動物実験施設 昭和57年	R造 地上5	831	4,200
あのはな記念講堂 昭和39年 （医学部創立85周年記念事業） （平成26年改修（一部））	R造 地上3 地下1	1,252	2,186
あのはな同窓会館 平成25年 （医学部創立135周年記念事業）	R造 地上2	545	656
亥鼻地区サークル会館 昭和2年 運動系26団体， 文化系11団体が利用中	R造 地上2 地下1	674	1,586
亥鼻地区体育館 昭和58年 1階・剣道，空手 2階・バレー，バスケット， バドミントン，卓球， フットサル，ハンドボール	R造 地上2	660	1,065
学生寄宿舎（雄翔寮） 昭和54年 収容人数60名（個室） 各階に談話室，湯沸室，洗濯室 1階にシャワー室2箇所	R造 地上3	367	1,093
亥鼻地区サークル部室 平成23年 サークル部室A:8部屋 サークル部室B:6部屋	S造 地上2	256	427

名称	構造階数	建面積（㎡）	延面積
勝山セミナーハウス 平成16年 6畳和室2間，バス，トイレ， リビング・ダイニング．キッチン 通年使用可	W造 地上1	48	48

亥鼻キャンパス

Inohana Campus

約266,033㎡



千葉城近くの高台にある亥鼻キャンパスには、医療系3学部と関連センターが設置されています。2011（平成23）年9月に、薬学部が西千葉キャンパスから移転し、医学部、薬学部、看護学部が同一のキャンパスに集まりました。千葉大学医学部附属病院も隣接しており、医療系の教育・研究の拠点となっています。

医学部
薬学部
看護学部

〒260-8670（医）、〒260-8675（薬）、〒260-8672（看）、〒260-8673（真菌）、〒260-8677（附属病院）　千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL 043-222-7171

千葉大みらい医療基金

千葉大学から世界へ発信するための若手医学研究者育成を目指して

千葉大学医学部、大学院医学研究院は未来に向けて「変化」と「多様性」を尊重しつつ、世界に向けて「治療学」の情報を発信していく千葉大学大学院医学研究院・医学部の理念を推進しています。
本学は約150年に及ぶ歴史の中で多くの優れた医師を輩出してきました。これまで千葉県の地域医療への大きな貢献もしてまいりました。さらに現在も多くの分野で日本のみならず世界をリードする診療、研究を行っています。中でも病気の治療を重視した「治療学」を診療・研究の重要な柱としています。2021年には、昭和12年（1937年）に完成した医学部棟から約80年ぶりに新築の治療学研究棟へ移転し、新たな世紀へ向け躍進していくよう皆様と一緒に更なる発展に向け、新たな1歩を進めたいと願っています。
「人材育成」を基本方針とする本学部で是非、日本・世界をリードする医師、医学を目指す志を実現したいという若手医師・研究者育成を熱望しております。しかしながら、国立大学法人を支える国からの運営費交付金はどんどん減ってきているのが現状です。AIを活用した医学研究、災害と関連する医療・医学の研究、新型ウイルス感染症に関する研究など時代に則した新たな研究開発もこれまで牽引してきた研究とともに積極的に推進していますが、そのための研究資金が不足しています。そのために2020年より本基金を開始しました。是非とも皆様のご支援を賜りたく、切にお願いする次第です。よろしくお願い申し上げます。

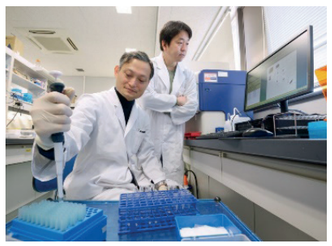
医学研究院長・医学部長
三木 隆司

本基金の目的

1 医学研究の推進

これまでにない、
あっと言わせる研究に挑戦

先端的医療開発のため若手研究者のための研究助成事業を行い、日々医療の限界にチャレンジをしています。



2 医学教育を支援

生命科学から臨床医学まで

医療のエキスパートを育成します。



3 治療学研究棟の環境整備

85年の時を経ての更なる飛躍へ

一定以上のご寄付をいただいた方は治療学研究棟の顕彰銘板へご芳名を掲示いたします。





寄付金額に応じて治療学研究棟にご芳名を掲示致します



10万円以上ご寄付を頂いた方のお名前を刻印した銘板を、医学系総合研究棟（治療学研究棟）入口階4Fのラウンジ付近に掲示させて頂きます。

銘板	個人	法人
ゴールド	100万円～	500万円～
シルバー	50万円～	200万円～
ブロンズ	10万円～	50万円～

寄付者顕彰制度

個人様100万円以上／法人様500万円以上のご寄付でご芳名を刻印した記念プレートを贈呈致します。

3万円以上のご寄付で医学部オリジナルペーパーウェイトを贈呈致します。





税制上の優遇措置

当基金へのご寄付は所得控除が適用されます。法人様からのご寄付は全額損金へ算入可能です。お送りする領収証を証明書とし確定申告書に添付して提出ください。

各種基金イベントへのご招待

年度末ごとにご寄付頂きました皆様を謝恩会にお招き致します。その他基金室主催のイベントも企画しております。

お申込み

書面によるお申込み

①当基金の指定する払込取扱票に必要事項(お名前/住所/電話番号/使途の特定と掲示の希望にチェック)をご記入し、お近くの金融機関でお振込みください。払込取扱票は郵送致しますので、HPよりお申し込みいただくか、基金室までお気軽にご連絡ください。

②現金でのご寄付の場合は医学部基金室にて寄付申込書の記載をお願いしております。

WEBサイトからのお申込み（PC/スマホ）

千葉大みらい医療基金ホームページから下記の方法でお申込み頂けます。
https://www.mirai-fund.chiba-u.jp

①クレジットカード決済
②インターネットバンキング
③お問い合わせフォームからお問い合わせ

クレジットカード決済であれば毎年の寄付も簡単にお手続きいただけます

お問い合わせ先
国立大学法人千葉大学　千葉大みらい医療基金
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1　TEL：043-226-2286　E-mail：chiba-medic-funds@chiba-u.jp